

33  
72



始





33

72

**勢情の近最界絹人國各** 訂改  
版再

社會式株絲絹造人國帝  
室 查 調



特232  
270



本書は

最近人絹織物の普及と國際的競争による各國情勢の推移が、我人絹界に及ぼす關係の漸く密接ならんとするに當り、本邦人絹工業の現在及將來が金解禁後の我國國際貸借の上に至大の重要性を有するに鑑み、茲に當社の蒐集せる千九百二十九年に於ける世界人絹界の情報中より拔萃編纂して、識者の參考に資せんとしたるものなり。

本書に於ては單に情勢に對して、何等編輯者に於て意見を加へず、報せられたる儘を配列したるを以て、或は同一事項の重複せるあり、或は甲乙相矛盾せるあり、特に数字的のものに於ては前後一致を缺くものあるを免れざるも、情勢を知らんとするに於て此の如く有の儘の材料によるも判断の正鵠を得るに便なるべきと、編纂に時日を要して材料の新味を失ふを懼れたることによる。

若し讀者が人絹界の情勢に關し知らんと欲せらるゝ點に對して、本書中に輯録せる材料が其の用を爲すを得れば、以て本懐とする處にして、更に特志の士にして本書を通讀せられ人絹事業に於ける世界の現勢を了得せらるゝ處あらば至幸之に過ぎざるなり。



帝國人造絹絲株式會社  
專務取締役

内海 靜太郎







各 國 人 絹 市 價 の 變 遷

(一) 英國市場	.....	五
(二) 佛國市場	.....	六
(三) 獨逸市場	.....	七
(四) 伊太利市場	.....	七
(五) 米國市場	.....	七
人絹カルテルの國際化		
(一) 人絹會社の世界的連鎖	.....	八
(二) 伊太利人絹共同販賣機關の設立	.....	九
(三) 獨逸國內販賣高割當協定	.....	九

品 質 主 義 へ の 新 傾 向 と ス テ ー プ ル ・ フ ァ イ バ ー の 擡 頭

(四) 獨逸グラントツストフ及び和蘭エンカ兩社の合同成立	.....	一〇〇
(五) アセテート絹製造會社の提携機運	.....	一〇三
品質主義への新傾向とステープル・ファイバーの擡頭		
(一) 大量生産より品質主義へ	.....	一〇五
(二) アセテート糸の勃興	.....	一〇六
(三) 銅アムモニア糸の復活	.....	一〇三
(四) リリエンフェルド糸の發明	.....	一一六
(五) フランドウツドプロセスの出現	.....	一一七
(六) マルチファイラメント糸の進出	.....	一二〇
(七) ステープルファイバーの擡頭	.....	一二四

綿 交 織 方 面 へ の 進 出

(一) 諸外國に於ける人絹綿交織の發達	.....	一三五
(二) 運々たる本邦の實狀	.....	一四一
本邦に於ける生産並輸出入		
(一) 本邦に於ける生産	.....	一四六



(4)

(二) 人絹原糸の輸出入と同織布の輸移出	一四九
本邦に於ける人絹の消費	一六四
(一) 各機業地に於ける人絹織物の生産状態	一七二
(二) 各機業地に於ける人絹の消費	一七三
本邦人絹市價の變遷	一七三
(一) 渾沌時代	一七三
(二) 定價時代	一七六
(三) 成行相場時代	一七九
東洋市場に於ける各國進出の状況	一八四
(一) 支那市場	一八六
(二) 英領印度市場	一九七
(三) 海峽植民地市場	二〇三
(四) 蘭領東印度市場	二〇四
(五) 比律賓市場	二〇六

(以上)

### 再版訂 各國人絹界最近の情勢

帝國人造絹絲株式會社  
調査室編纂

### 各國に於ける生産並輸出入

#### (一) 各國の人絹生産高

世界に於ける人絹工業は歐洲大戰の終了と共に異常なる發展を示した。殊に近年に至つて年々の増産率は約三四割に及んで今や世界的に一大工業として牢固たる基礎を築くに至つた。世界累年の生産額を示せば左表の通りである。

(1)

一九〇〇年	二、〇〇〇、〇〇〇(封度)
一九一〇年	一六、〇〇〇、〇〇〇
一九二〇年	五〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二一年	六〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二二年	八〇、二六五、〇〇〇
一九二三年	九六、九八〇、〇〇〇



一九二四年	一一五、八五〇、〇〇〇
一九二五年	一六四、六五〇、〇〇〇
一九二六年	二一八、五八〇、〇〇〇
一九二七年	二八八、七四四、〇〇〇
一九二八年	三四七、九四〇、〇〇〇
一九二九年(推定)	四二九、一八〇、〇〇〇

右の表に就て見るに一九二九年の世界總生産額は、既に四億封度を突破し、これを十年前の一九二〇年の數字に比較すれば約八倍に餘る増加と云はなければならぬ。

又之を同年度生糸の總産額一億五千萬封度に比すれば約三倍に該當する。これ實に人絹工業の發達並に其製品需要増加が如何に急激に進展しつゝあるかを知るに足るものである。

次に各國生産狀況に就て見れば、世界總産額に對し米國二割八分、伊、英、獨三國は殆んど生産高相伯仲し、各一割二、三分方を占め可成の間隔を置いて佛國第五位を占め日本は未だ三千萬封度には達せないが近年著しく生産増加し、斷然白耳義、和蘭を抜き第六位を占むるに至つた。國別の詳細は次表の通りである。(單位千封度)

國別 一九二七年 一九二八年 一九二九年推定

北米	七五、五二二	九七、七〇〇	一二三、一三〇
英吉利	三八、八〇二	五〇、三八八	五七、〇〇〇
獨逸	三六、〇〇〇	四三、〇〇〇	五二、〇〇〇
伊太利	四九、七二〇	五〇、三八〇	五五、〇〇〇
佛蘭西	二六、四〇〇	三〇、〇〇〇	三七、六五〇
日本	一〇、五〇〇	一六、五〇〇	二七、〇〇〇
和蘭	一六、五〇〇	一八、〇〇〇	二〇、五〇〇
白耳義	一三、二〇〇	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
瑞西	九、〇〇〇	一二、〇〇〇	一三、二五〇
其他	一三、一〇〇	一四、九七二	二三、六五〇
合計	二八八、七四四	三四七、九四〇	四二九、一八〇

尙之を各種人絹の製法別に就て見れば、ツイスコース法最も盛んにして、總産額中八割以上を占め最近勃興の機運にあるアセテート法の産額と雖も未だ一割にも充たない。ベムベルグ製糸(銅安糸)亦増産の見込あるも、五分を出でず、硝化綿法の如きに至つては漸く四分方を維持してはゐるものゝ、同法の最大會社白耳義、チューピーヅ社の社長てさへ、以前より同法は必然凋落の運命にあると公言してゐたが、愈々本年に至り廢止と決定せる旨外紙は報じて居る。



(二) 米國生産並輸出

米國に於ける人絹界は終始一貫最も目覺しい發展を示した。一九一三年の生産高僅かに二百四十萬封度を出發點として一九二二年には早くも二千萬封度に達したが、爾來急激なる需要の増進に追はれ、逐年増産に次ぐに増産を以てし一九二九年度に於ては一億二千萬封度を超え、本年は實に一億七千萬封度と豫想されるに至つた。累年の生産高は左表の通りである。(單位千封度)

一九一三年	二、四〇〇
一九二二年	二三、一五九
一九二三年	三五、四〇〇
一九二四年	四〇、五〇〇
一九二五年	五二、七〇〇
一九二六年	六五、〇四五
一九二七年	七五、五二二
一九二八年	九七、七〇〇
一九二九年	一二三、一三〇
一九三〇年(豫想)	一七三、六五〇

右の通り生産高は急激に増加したが、消費の發達は常に一步を先んじ、輸入方面

も亦漸次増加を見た。現在消費の約一割は海外にその供給を求め、一九二七年度の如きは約一千六百二十萬封度を輸入して、米國に於ける人絹輸入高の最高記録を作つた。累年米國人絹輸入高は次の通りである。

一九一三年	二、五三〇、〇〇〇 (封度)
一九二二年	二、〇八八、〇〇〇
一九二三年	二、九〇六、〇〇〇
一九二四年	一、七一一、九八七
一九二五年	七、〇〇〇、五一一
一九二六年	一〇、一二六、二八七
一九二七年	一六、二二二、五四五
一九二八年	一二、七五三、九八九
一九二九年	一五、九〇二、八六〇

之を仕出地別に見れば獨逸製品の活躍振りが特に顯著である。從來伊太利のダムピング品が斷然他を壓してゐたが、一九二七年度六百七十八萬封度の記録を残して、次年度は二百萬封度を減じ更に一九二九年度に至つて百萬封度以上を縮め三百三十一萬封度と減退した。伊太利輸出品は元來下級品が大部分を占めて



居るから、米國市場では需要の減退も亦免れ得ない處であらう。之に反して獨逸は概して高級品を供給し新興勢力として、其の輸入額は昨年度に於て五百十九萬封度に達し驚くべき發展振りを示した。佛國も亦漸次勢力を扶殖し、昨年度に於て約三百四十七萬封度に達し、遂に伊太利を第三位に追込むに至つた。詳細は次表の通りである。(單位千封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
伊太利	六、七八八	四、七二九	三、三一〇
獨逸	二、六〇一	二、六三九	五、一八九
佛蘭西	二、八二九	二、一九五	三、四七四
和蘭	二、五八四	一、五四九	二、一九九
其他	一、四二一	一、六四二	一、七三一
計	一六、二二三	一二、七五四	一五、九〇三

尙之等輸入品に就きデニール別にその割合を見れば次の通り大部分は百五十デニール品を以て占めて居る。

デニール	數量割合	價格割合
一五〇	六二・〇%	五七・〇%

一〇〇	五・八%	八・三%
七五	一・八%	二・九%
其他	三〇・四%	三一・八%
計	一〇〇%	一〇〇%

### (二) 英國の生産並輸出

英國累年の人絹生産高は一九一三年當時六百六十萬封度より、逐年順調に發展を續け、現在五千七百萬封度を生産し、米國に次ぐ世界第二の人絹生産國である。累年生産高を示せば次の通りである。

一九一三年	六、六〇〇、〇〇〇(封度)
一九二二年	一五、三四〇、〇〇〇
一九二三年	一六、〇〇〇、〇〇〇
一九二四年	一七、〇〇〇、〇〇〇
一九二五年	二二、五〇〇、〇〇〇
一九二六年	二五、五〇〇、〇〇〇
一九二七年	三八、八〇二、〇〇〇
一九二八年	五〇、三八八、〇〇〇



一九二九年 五七、〇〇〇、〇〇〇

右の通り過去に於て著しい増産を續けたが、昨今同國の人絹界は深刻に不況に直面し、新計畫を目論む餘地もない有様であるから、近き將來に於ては大した増産は期待し得られな。

然らばその需給關係は近年如何に推移しつゝあるか。今一九二八、九兩年度の同國人絹販賣に課せられる生産税を基礎として割出したる販賣高を生産高と對比して見る。(單位千封度)

時期	一九二八年	生産高	販賣高	滞荷附加量
一月—三月	一三、三〇〇	一三、〇〇〇	三〇〇	
四月—六月	一三、八〇〇	一三、二〇〇	六〇〇	
七月—九月	一三、九〇〇	一三、三〇〇	六〇〇	
十月—十二月	一三、三〇〇	一三、一〇〇	二〇〇	
一九二九年				
一月—三月	一二、九〇〇	一二、七〇〇	二〇〇	
四月—六月	一三、二〇〇	一三、一〇〇	一〇〇	
七月—九月	一五、七〇〇	一五、〇〇〇	七〇〇	

右の通り一九二八年度第二及第三、四半期は各六十萬封度をストックに加へて供超を數字的に立證して居る。其後の推移は極めて順調にしてストックとなつた附加量も漸次減少を見つゝあつた。昨年第三期に至つて從來にない七十萬封度の巨額をストックとして附加したのは、新設會社の操業開始にかゝる生産急増によるものであるが、最近消費も亦從來に見ない程大いに増進し、需給關係は漸次改善せられつゝある。

次に輸出入状態を見るに、輸入は一九二五年中一千萬封度以上に達したが、同年輸入關稅の設置と國內生産急増に壓せられ、爾來二百萬封度に止まり、更に減退の道程を辿りつゝある。加ふるに輸出は一九二八年度に於て殆んど一千萬封度に達せんとする形勢を示した。詳細は次表の通りである。

英國累年人絹輸出入 (單位封度)

時期	輸出	輸入
一九二五年中	七、三五九、三一一	一一、七八〇、五六四
一九二六年中	六、三三九、四六六	二、三〇〇、八三〇
一九二七年上半年	三、四六二、六一六	一、一五四、三二八
一九二七年下半年	五、一〇二、四二三	一、五四六、三九八



一九二八年上期	四、三六六、一〇九	一、六二〇、四七八
一九二八年下期	五、四四九、八九七	一、二六四、三四〇
一九二九年上期	四、二二九、四七三	一、〇九八、〇八六
一九二九年下期	四、四七二、八七四	一、〇五二、六二八

尙同國に於て重視せられつゝあるのは寧ろ製織品の貿易關係であるが、一九二五年當時輸出入共に三百七十萬磅であつたものが一九二八年には輸出八百五十萬磅に上り、輸入も亦六百四十萬磅と夫々大いに増加した。即ち次表の通りである。

英國人絹製品輸出入 (單位千磅)

	輸 出	輸 入
一九二五年	三、七二六	三、七六五
一九二六年	五、七八二	三、七五八
一九二七年	六、二二〇	五、五三五
一九二八年	八、五〇二	六、四二八

更に極く最近の情勢を窺ふに海外市場に於ける競争漸く激烈を加へ、人絹原糸の輸出入は共に一昨年に比して著しく減少した。一方織布方面を見るに、雙人絹織布は輸出入共に稍増加したが、最も重要な位置を占めてゐる交織布の輸出が

昨年に比して余り満足なる結果を示してゐない。

マンチエスター商業會議所發表の統計に依れば、一九二八年度の人絹交織布總輸出高は約一億碼に達し、一九二七年度の七千二百萬碼に對して約三割方の増率を示したが、一九二九年度は八千六十七萬碼に止り前年に比して約一割九分方を減じた。之は從來總額の約二割を占め年額(一九二八年)二千萬碼に達する英領印度への仕向が最近日本及び伊太利品流入の影響を受け昨年は前年に比し約五百萬碼の激減を示せる事が主なる原因である。且つ一昨年中一千四百萬碼を積出して大々の躍進を爲しつゝあつたブラジル方面への輸出が昨年關稅の引上により一時に著減し、殆んど七割以上を減退した爲でもある。將來最も囑望せられる市場は加奈陀、濠洲等である。詳細は次表の通り。

英國人絹織交織布輸出高 (單位千碼)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
英 領 印 度	一九二、七〇二	二一〇、七〇二	一五、二九八
加 奈 陀	六、八三六	九、五六三	一〇、二五一
濠 洲	四、二九一	六、二〇四	八、一八一
ブラジル	六、一一九	一四、三三一	四、一一二



蘭 領 印 度	五、四四七	六、五八三	四、七七七
英領南亞弗利加	二、七八八	五、四一六	四、七二〇
ニユージーランド	一、〇六八	二、四三五	三、三七六
埃 及	三、〇三四	三、七六一	二、六六〇
英領西亞弗利加	二、四八八	二、八一〇	二、六四二
支 那	四二五	二、二一八	一、五七七
コ ロ ン ビ ヤ	一、五八六	一、七六一	一、一三五
中 米	一、八五八	二、二二九	一、〇八四
セ イ ロ ン	一、三二五	一、五〇三	七三九
其 他	一七、二五五	一九、八六九	二〇、一一八
計	七二、四三一	九九、三八五	八〇、六七〇

之等人絹綿交織布は主として人絹含有量四割乃至五割のものが最も普通であつて總量の約四割方を占めてゐる。

(四) 伊太利の生産並輸出

伊太利の世界人絹界に於ける地位は、之を英獨のそれに比し兄たり難く弟たり

難しと云ふ可く世界有数の人絹生産國である。一九二二、三年當時の同國人絹の生産高は夫々六百六十萬封度、七百五十萬封度に過ぎざる微々たるものであつたが、累年倍増に倍増を重ね、遂に今日五千萬封度以上の年産を見るに至つた。次にその發展的數字を示さう。

一九一三年	三、三〇〇、〇〇〇	(封度)
一九二二年	六、六三三、〇〇〇	
一九二三年	七、五〇〇、〇〇〇	
一九二四年	一三、〇〇〇、〇〇〇	
一九二五年	二五、五〇〇、〇〇〇	
一九二六年	三五、〇〇〇、〇〇〇	
一九二七年	四九、七二〇、〇〇〇	
一九二八年	五〇、三八〇、〇〇〇	
一九二九年 (推定)	五五、〇〇〇、〇〇〇	

自國內市場は敢て云ふに足らぬにも拘らず、如斯麗大なる生産高を有する伊太利人絹界の目標なり生命が、一に懸つて海外輸出市場にある事は云ふ迄もない。輸出の増加は近來殊に目覺しく、就中最も目立つて見ゆるのは矢張東洋方面への



進出であつて、一九二九年度に於ては支那市場のみを以てしても殆んど一千二百萬封度を越ゆる數量を積出し、又從來伊太利品の投賣市場として知られてゐる獨逸市場への供給量は同年八百萬封度以上に達した。今過去六ヶ年間の總輸出高を示せば次の通りである。(單位千封度)

一九二四年	一〇、〇八二
一九二五年	一五、九七一
一九二六年	二一、五四〇
一九二七年	三二、六八四
一九二八年	三三、〇〇八
一九二九年	三八、五七七

輸出數量は右の通り著増したが、單價は一九二七年三六リラ四分の三、一九二八年三二リラ、一九二九年二七リラと年々低落し、却つて總價格は減退して馨しからぬ状態を招來した。

次に之を各仕向地別に見れば最も著しい現象は對支輸出の激増であらう。これに對して獨逸並に英印向は稍衰退の傾向がほの見えて居る。殊に北米への仕向高は茲一兩年來著減した。詳細左表の通りである。

伊太利人絹仕向地別輸出高 (單位千封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
支那	四、八六三	八、八一三	一二、二八一
獨逸	七、七六三	七、〇六三	八、三七二
英印及セイロン	三、九五〇	三、三一七	三、八六三
北米	六、二九三	四、五二四	二、九六三
瑞西	七〇四	九〇五	一、一六二
奧地利	一、四三五	一、二四六	一、一一二
佛蘭西	一三〇	三八九	一、〇八六
暹羅	一二七	二七四	七七七
埃及	五八二	六九四	九〇五
英吉利	八一六	一、〇一〇	四七九
西班牙	八七〇	一、一五四	九八四
アルゼンチン	一六三	三二六	六三七
白耳義	六〇七	二七二	二二六
日本	二二〇	五二	七〇九
日	三〇	二二九	四三八
ポルトガル	七九七	一二五	三二六
和蘭			



ユーゴスラビヤ	九〇	一六六	二九九
其 他	三、二四四	二、四四九	一、九五八
計	三二、六八四	三三、〇〇八	三八、五七七

(五) 獨逸生産並輸出入

獨逸に於ては比較的早くより人絹業の勃興を見た爲め、一九一三年當時に於て既に七百七十萬封度を生産する世界第一の生産國であつた。其後英米伊の發達次第に顯著となり現在生産高に於ては第四位を占めて居る。併し近年急激に生産を増加して、一九二九年は五千二百萬封度に達するに至つた。之を一九二六年の二千六百萬封度と對比すれば實に倍増せる譯である。累年の生産高を示せば次の通りである。

一九一三年	七、七〇〇、〇〇〇	(封度)
一九二二年	一一、五八四、〇〇〇	
一九二三年	一四、〇〇〇、〇〇〇	
一九二四年	一五、〇〇〇、〇〇〇	
一九二五年	一七、〇〇〇、〇〇〇	
一九二六年	二六、〇〇〇、〇〇〇	

一九二七年	三六、〇〇〇、〇〇〇
一九二八年	四三、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年	五二、〇〇〇、〇〇〇

尙輸出入方面は一九二五年頃迄は輸出超過であつたが、茲兩三年來伊太利よりのダムピング猛烈にして、順調に増加しつゝあつた輸出は、却つて輸入超過となり一九二八年の如きは輸入總額一千八百萬封度に達し、輸出總額の一千二百萬封度に對して大約六百萬封度の輸入超過となつた。併し昨年來輸出額に加はり輸出入共に活況を呈しつゝある。

詳細は次の通りである。(單位千封度)

	輸 出	輸 入
一九二三年	三、四六六	五七二
一九二四年	五、一六五	二、三四五
一九二五年	八、三五三	四、四二九
一九二六年	八、〇五五	九、九一七
一九二七年	九、四四八	二〇、六一五
一九二八年	一一、五五〇	一八、八五七



一九二九年

一八、三三五

二〇、四八九

人絹輸入市場としての獨逸は關稅比較的低率なる爲めに動もすれば伊太利和蘭其他隣邦より投賣市場として利用され易く、一九二八年以來伊太利よりの下等品のダムペンダが急増した事は上述の通りである。それが爲めに市場は不斷に極度の混亂状態を招いて來た。併し最近國內に於ける生産の増加と國際的カルテルの成立によつて輸入も漸く騰勢の足を止めつゝある模様である。即ち一九二九年中輸入高は二千四十八萬九千封度にして、前年中の一千八百八十四萬七千封度に比すれば一割の増加に當るが前々年度の數字よりは微少乍ら減少を示して居る。一方輸入單價が一封度に付き一九二八年度の四・〇三馬克より次年度は三・一七馬克(約一圓五十錢)へと二割以上低落したのは一般人絹市價の崩落を最も明瞭に反映したものであらう。

如斯輸入増加の足並は漸く其の歩を止めたが、他面獨逸産業は一般に高率なる稅金を課せられてゐる關係上、人絹の製造に當つても、下級品の製造は引合ず出来る限り優良品の生産を計つて輸出を之に充て、國內消費用下等品は輸入するに如かずと爲し、伊和よりの一定量の輸入は止むを得ずと爲す向もある。例へば昨年度の輸入單價は前記の通り封度に付き三・一七馬克に對し、輸出單價は四・五七

馬克である。一九二九年中に於ける伊太利よりの輸入は前年よりも増加して七百六十萬封度を超え、次いで和、白の順序であるが、この三ヶ國よりの輸入量は全輸入量の殆んど八割を占めてゐる。(單位千封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
伊太利	八、六七五	六、五七六	七、六二八
和 蘭	三、九五三	四、四六八	五、〇八七
白耳義	三、七三八	三、八〇二	二、九六三
瑞 西	二、五九一	一、九八四	不 詳
其 他	一、六五八	二、〇二七	四、八一
合 計	二〇、六一五	一八、八五七	二〇、四八九

轉じて輸出方面を見るに、各方面に向つて近來頗に確固たる地歩を築きつゝあり。從來伊太利品の跳躍に委ねてあつた米國市場に於て着々其の販路を擴充しつゝあるのは全く注目に値する。今一九二九年中輸出總額を見るに、一千八百萬封度を超え、一九二八年中に比し四割六分方の増率を示した。この内北米への積出高は著増し、五百萬封度を突破し、實に十三割以上の激増である。其の外チエツコ・スロバキアへ二百萬封度、西班牙へも百五十萬封度近く積出され、之亦前年に



對して著しい増加を示した。

各仕向國別詳細は次表に就て見らるゝ通りである。(單位千封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
北 米	二、三一五	二、二七五	五、一七一
チエツコ	一、〇二八	一、三八二	二、〇六二
西班牙	六六七	九六六	一、四九三
其 他	六、〇五七	七、九二七	九、六〇九
合 計	一〇、〇六七	一二、五五〇	一八、三三五

(六) 佛蘭西の生産並輸出入

佛國は人絹抑々の發祥の地なるに拘らず、他國に比し事業の發展稍遅れたかの如き觀があつたが、最近人絹の需要は頓に増加の傾向を示し、一昨年來世界的増産に伴ふ一時的滞荷に苦しみつゝある歐洲各國の間に伍して、徐々工場の新設計畫を立て生産の増加を計りつゝある。一九二四年迄は國內の生産高一千萬封度にも達しなかつたが、一九二九年には三千七百六十五萬封度に上り、將來尙大いに發展の餘地を残してゐる。累年の生産高は左表の通りである。

一九一三年	三、三〇〇、〇〇〇(封度)
一九二二年	六、二九二、〇〇〇
一九二三年	六、五〇〇、〇〇〇
一九二四年	八、七五〇、〇〇〇
一九二五年	一四、〇〇〇、〇〇〇
一九二六年	一七、五〇〇、〇〇〇
一九二七年	二六、四〇〇、〇〇〇
一九二八年	三〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年	三七、六五〇、〇〇〇

如斯生産増加と共に輸入は漸次減退し、一九二四年當時の三百九十二萬封度を最高記録とし、一九二八年には僅かに三十四萬五千封度に過ぎず、昨年は需要増進の爲め稍膨脹し、上半期に於て三十二萬封度に達したが、生産量と對照すれば殆んど云ふに足らない。その反面輸出の増加は驚くべきものがある。一九二四年三十萬封度の少額より一九二九年度には實に生産高の三割六分に相當する一千三百五十萬封度を輸出するに至つた。

累年の同國人絹輸出入高は次の通りである。(單位千封度)



	輸 入	輸 出
一九二四年	三、九二〇	三〇四
一九二五年	一、八三一	一、三七八
一九二六年	二、一六八	二、三九七
一九二七年	九五三	一〇、六五六
一九二八年	三四五	一一、〇九七
一九二九年(×印上期)	×三二三	一三、五八七

(七) 和蘭生産並輸出

以上五ヶ國に次いで比較的大量の生産を行つてゐるのは本邦に指を屈せなければならぬが、本邦に次いで第七位にあるのは和蘭である。同國は一九二二年當時にあつては生産高僅々二百五十萬封度に過ぎなかつたが、其後順調に發展して、一九二九年は二千萬封度と推定せられて居る。同國は全然輸出を目標として生産に従事して居り、國內消費は極めて僅少である。輸出量は國內生産力の増進と相俟つて逐年増加し、一九二八年生産高一千八百萬封度に對して輸出は一千六百六十萬封度即ち九割以上に該當する。一九二九年も亦一千八百九十二萬四千

封度を輸出し、生産高の九割以上を占め、前年中の輸出高に比すれば一割三分の増率となる譯である。他面一般市價下落に伴ひ單價の低下急激にして價格に於て却て減少を見た事は伊太利の場合と其の軌を一にする。近年の生産並に輸出高は次の通りである (單位千封度)

	生 産 高	輸 出 高
一九二二年	二、五一七	一、七四七
一九二五年	七、〇〇〇	六、二六三
一九二六年	一三、五〇〇	一一、七一四
一九二七年	一六、五〇〇	一五、二九五
一九二八年	一八、〇〇〇	一六、六二二
一九二九年	二〇、五〇〇	一八、九二四

之等仕向地としては獨逸が第一位にあり、總額の三割四分を占め、次いで北米、加奈陀、支那の順序であるが、北米向が前年より殆んど五割方増加した事は見逃し得ない。詳細は次表に就て見られ度い。(單位千封度)

獨 逸	一九二七年	一九二八年	一九二九年
	四、六二二	五、六一二	六、三五八



北 米	三、〇八九	二、〇四六	三、〇二一
加 奈 陀	九八八	一、五六四	一、八九〇
支 那	一、四三四	一、一二〇	九八三
印 度	六五一	九三一	五八七
其 他	四、五一一	五、三四九	六、〇八五
合 計	一五、二九五	一六、六二二	一八、九二四

(八) 白耳義の生産並輸出

白耳義は生産高に於ては和蘭と略匹敵するが、國內に於て殆んど其の半を消費し、和蘭の如く輸出は旺盛でない。併しそれでも一九二八年度の輸出總額は八百萬封度を超過した。次表は一九二五年以降の生産並に輸出高である。(單位千封度)

	生産高	輸出高
一九二五年	九、〇〇〇	六、七七一
一九二六年	一三、一〇〇	六、六四〇
一九二七年	一三、二〇〇	七、四七〇
一九二八年	一五、〇〇〇	八、一五八

一九二九年(推定) 二〇、〇〇〇 六、〇九一

輸出先としては獨逸が第一であつて總量の四割以上を占めてゐる。(單位千封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二八上期	一九二九上期
獨 逸	三、七一四	三、五三七	一、七九九	一、二八三
奧地利	一、〇六七	七四七	三九四	三五六
北 米	五二二	八四三	三一六	一九八
チエツコ	二二六	四五五	二二五	二八〇
其 他	一、九五一	二、五七六	一、二九七	七四三
合 計	七、四七〇	八、一五八	四、〇二一	二、八六〇

(九) 瑞西の生産並輸出

瑞西は次表に見らるゝ通り、現在一千三百萬封度の年産力を有してゐるが、益々發展の機運を藏してゐる。過去に於ける生産高は次の通り順調なる経過を辿つて居る。

一九二四年	三、〇〇〇、〇〇〇(封度)
一九二五年	六、〇〇〇、〇〇〇



一九二六年	八、〇〇〇、〇〇〇
一九二七年	九、〇〇〇、〇〇〇
一九二八年	一二、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年	一三、二五〇、〇〇〇

同國の人絹輸入税は比較的低率なるを以て輸入は年々三百萬を超ゆる程であつた。然るに右の通りの生産の増加と共に一九二五年以來輸出は常に輸入を凌駕して漸増傾向を示し一九二八年には八百萬封度を超ゆるに至り、總生産高の六割八分に達した。仕向先の主なるものは北米であるが。累年の輸出入高を示せば左表の通りである。(單位千封度)

	輸 出	輸 入
一九二五年	四、一一六	二、七三九
一九二六年	六、四九九	二、二二二
一九二七年	七、二六〇	三、六一五
一九二八年	八、二一〇	三、三四八
一九二九年度上期	三、九一一	一、五一一

(一〇) 各國人口一人當り生産並消費高

最後に伊太利人絹雜誌 *La Seta Artificiale* に掲載せられた一九二八年度各國人口一人當りの人絹生産並に消費高を轉載して、各國生産並に消費の趨勢を又別の方面から觀察して見る事とする。

今一人當り消費高順に之を配列すれば瑞西第一を占め、次て白耳義第二に位し人絹消費の一般的普及を物語つて居る。尙何れも生産は消費に倍し、人絹輸出國たる事を立證して居る。

本邦は生産、消費共に〇・一一疋であるが、一九二九年度の數字は消費、生産共に今少し増進を見る筈である。

尙之を獨佛伊等本表中中位に位するものに比するも其の半にも達せず、又比較的高度の生産並に消費率を有する瑞西、白耳義に比すれば其の懸隔亦甚しいと云はなければならぬ。この點より見て我國消費の増進は寧ろ今後に大いに期待すべきものがあらう。詳細は次表の通りである。

一九二八年度各國人口一人當り人絹生産並消費高 (單位疋 二・二封度)

消 費 生 産



瑞 西	○・七〇	一・二六
白 耳 義	○・五五	一・〇一
英 吉 利	○・四三	○・五一
北 米	○・四一	○・三七
獨 逸	○・三八	○・三四
佛 蘭 西	○・三〇	○・四一
伊 太 利	○・二九	○・六五
チエツコ	○・二七	○・〇九
加 奈 陀	○・二六	○・一七
澳 地 利	○・一九	○・二七
和 蘭	○・一七	一・〇五
日 本	○・一一	○・一一

### 主要國に於ける人絹會社と其の生産高

#### (一) 人絹製造會社數と投資總額

現今世界を通じて人絹製造會社數は百九十八に達するが、その内ツイスコース法を採用するもの約八割を占め、百五十四 (他法兼營十五社) を數へる。アセテート法に依るものは三十一あるが、その内ツイスコース法兼營は十會社にして、銅安法によるものは二十二、その内ツイスコース法兼營は三、硝化法によるものは六、その内ツイスコース法兼營二である。併しツイスコース法以外によるものは比較的小規模のもの多く、従つて生産高も亦云ふに足らないものが多い。次に世界に於ける人絹會社の各製法別會社數を示す。

延 數	他製法を兼營のもの	他製法を兼營せざるもの
ツイスコース法	一五四	一三九
アセテート法	三一	二一
銅 安 法	二二	一九



硝化法	六	二	四
計	二二三	三〇	一八三

備考 他製法を兼管せざるもの一八三社に兼管せるもの三〇社中重複計上せられたる一五社を差引たる残り一五社を加へた一九八社が世界人絹製造會社總數である。

更にこれを主要國別に其の人絹會社數を見れば左表の通りであるが、佛國最も多く、米、英これに次いで居る。佛國が其の生産高に比して比較的多くの會社數を有するのは小會社の多い爲である。

國別	人絹會社數
佛蘭西	四三
英吉利	三六
北米	二五
獨逸	二二
伊太利	一六
白耳義	一二
日本	一〇
和蘭	六
瑞西	六

其他	二二
計	一九八

尙之等世界人絹會社に投資せられた資本總額はマンチエスター・ガーデアン紙の調査に依れば、一九二八年一月當時の一億一千四百六十五萬磅より翌一九二九年四月當時に於ては實に五割以上を急増し、約一億七千二百七十五萬磅と計算せられて居る。

蓋し何人と雖もこの新興化學工業の異常なる發展に對して無關心ではあり得まい。今各主要國別の公稱資本總額を示せば左の通りである。

各國人絹工業公稱資本總額 (單位千磅)

國別	一九二八年一月	一九二九年四月	增加額
米國及加奈陀	四五、三五〇	六三、〇〇〇	一七、六五〇
英吉利	一七、五〇〇	四六、〇〇〇	二八、五〇〇
伊太利	二〇、九〇〇	二二、三〇〇	一、四〇〇
獨逸	九、九〇〇	一一、四〇〇	一、五〇〇
佛蘭西	八、一五〇	一一、三五〇	三、二〇〇
和蘭	四、六〇〇	七、七〇〇	三、一〇〇



白耳義	二、一〇〇	二、五五〇	四五〇
瑞西	一、三五〇	一、四五〇	一〇〇
日本	三、一〇〇	四、四〇〇	一、三〇〇
其他	一、七〇〇	二、六〇〇	九〇〇
計	一、一四、六五〇	一、七二、七五〇	五八、一〇〇

斯かる投資額の激増は新設會社が相次で計畫された事並に既設會社の増資額々であつた事に基因する。例へばコートルツ社がこの期間に二千萬磅より三千二百萬磅へと増資したなども其の一例である。尤も我國の公稱資本金總額は一九二九年四月當時八千七百萬圓（拂込五千七百萬圓）にして、その内一九二八年一月以降増資せられたる金額は僅かに七百萬圓に過ぎず、右表中の數字とは著しく相違するが假りに此儘掲載して置いた。歐米諸國の調査はこれ程の誤差は無からうと想像せられる。

### (二) 英國……コートルツ社とセラニーズ社

英國の人絹會社は一九二五年當時は同國産業界の寵兒と稱せられた程隆々たる勢ひであつたが、茲兩三年來著しい悲境に沈淪し、現在利益を擧げて居るのはコ

ートルツ、セラニーズ、ハーベンス等二、三の一流會社に過ぎず、多くは苦難状態にある。之は一には戦後萎縮して了つたかの觀ある同國一般業界がゼネラル・ストライキの爲めに一層深刻なる不況に閉され、購買力が著しく減退した事に基くものであつて、二には單に斯界の先進諸會社がこれ迄非常に繁榮して來たと云ふ一事に因つて、消費力の自然的發展を顧みず、多數の自己倒壞的新設會社が激増した事に基くものである。搦て、加へて昨年末の關稅問題に對する政府の方針は、全く取引を不圓滑ならしめ、業界の基礎益々動搖し、本年に入つてより既に三つの工場が直接之が原因に依つて閉鎖した。

次に各社の業績を最も直截に反映せる株價を見るに、概して人絹株は高低常なく甚しく不味に推移してゐるが、之は一九二八年下期から九年以上期へかけて市價低落を重ね、減收を余儀なくさるゝに至つた事が主なる原因である。同國三十六を數へる人絹會社中株式額面以上の時價を有するものはコートルツ、セラニーズの二社に過ぎず、他は何れも額面を割る事五割以下と云ふが如き慘憺たる場面を呈した。殊に新設九會社に就きその株價を見るに、額面が合計八百五十九萬三千二百九磅なるに對し、一九三〇年一月當時の時價は僅かに百九十五萬六千五百四磅に過ぎない。實に七割七分方の崩落振りである。然かもコートルツ及びセラ



ニーズ兩社さへも低落の一途を辿りつゝある。即ち兩社普通株の變動を示せば次の通りである。

	コートルツ社(額面)	セラニーズ社(額面)
一九二七年末	七磅 <sup>三</sup> / <sub>七</sub>	四磅 <sup>-</sup> / <sub>ニ</sub>
一九二八年	九磅 <sup>-</sup> / <sub>八</sub>	六磅 <sup>三</sup> / <sub>五</sub>
最高	三磅 <sup>五</sup> / <sub>八</sub>	一磅 <sup>七</sup> / <sub>六</sub>
最低	四磅 <sup>五</sup> / <sub>六</sub>	一磅 <sup>-</sup> / <sub>八</sub>
年 末	五磅 <sup>ニ</sup> / <sub>八</sub>	二磅 <sup>ニ</sup> / <sub>八</sub>
一九二九年	二磅 <sup>五</sup> / <sub>八</sub>	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>
最高	二磅 <sup>ニ</sup> / <sub>八</sub>	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>
最低	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>
一九三〇年四月	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>	〇磅 <sup>六</sup> / <sub>八</sub>

即ち僅々三年足らずの短時日の間にコ社株は三分の一、セ社株は六分の一に惨落した譯である。セ社は現在漸やくにして一磅の水平線を上下して居るに過ぎ

ない。コ社でさへ如斯甚大なる株價暴落をなしてゐるを見れば、如何に同國新業が一般に不振を極めつゝあるかを知るに足るであらう。次に同國代表的會社に就き簡單に説明を加へる。

△コートルツ社 (Courtaulds, Ltd.)

設 立 一九〇四年七月一九一三年四月現名に改稱)

資 本 金 三千二百萬磅

工場所在地 Coventry, (一工場) Flint, (二工場) Wolverhampton

製 造 ヴイスコース法並にアセテート法

日 産 十萬封度

同社は現社長サミュエル・コートルド氏によつて、一九〇四年七月一日設立せられ、サミュエル・コートルド・カムパニーと稱せられ世界最初のヴィスココース法工場をコヴェントリーに建設し、一九一三年名稱を現在のコートルツ社と改め、今日世界最大の人絹會社として確固たる基礎を築き、噴々たる名聲を全世界に馳せてゐる。同社は現在上記の通り三地方に人絹製造の目的を以て五工場を所有してゐるが、其他人絹織布又は撚糸工場を同國主要機業地に散在せしめてゐる。その内の一であるレイ工場の織布部丈でも二千四百人の工手を使用してゐる



程歴大なものである。人絹製造方法は主としてツイスコース式に依つてゐるが、コヴェントリーの一工場ではアセテート絹を製造し、又一昨年よりリリエンフェルド法に依つて「デュラフィル」の如き高級品をも製造してゐる。

現在同社は日産十萬封度を操業しつゝあるが、過去數ヶ年間に於ける生産高實績は左の通りである。(單位千封度)

一九二二年	一一、三三一
一九二三年	一三、三五八
一九二四年	一九、三六〇
一九二五年	二四、二八八
一九二六年	二三、四七四
一九二七年	二五、〇九七
一九二八年	三三、〇〇〇

逐年如斯激増振りを示し、一九二八年度に至つては三千三百萬封度に達して、同年同國總生産額五千三十八萬八千封度に對し六割五分を占めて居る。右生産高の増加につれ、純益の増加も極めて順調なる経過を辿つて居たが、昨年度は近年に無き不振の業績を示した。同社々長は之が原因として二つのものを擧げて居る。

一つは關稅問題の成行判然とせず、不安人氣が醸成せられた事、即ち政治的原因と、二つにはウォールストリートの瓦壞の影響である。茲數年來の収益狀態を示せば左の通りである。

	資本金(千磅)	純 益(磅)	配 當 率(%)
一九一三年	二、五〇〇	四七四、一五四	七・五〇
一九一四年	二、五〇〇	五二〇、三四九	一二・五〇
一九一〇年	一一、〇〇〇	一、八〇四、七九六	二三・七五
一九二一年	一一、〇〇〇	一、六八四、五九三	一一・二五
一九二二年	一一、〇〇〇	三、〇一八、四三二	一五・〇〇
一九二三年	一一、〇〇〇	二、九一六、九五〇	一五・〇〇
一九二四年	二〇、〇〇〇	三、八八〇、七四四	二〇・〇〇
一九二五年	二〇、〇〇〇	四、四一一、四一三	二五・〇〇
一九二六年	二〇、〇〇〇	三、八四〇、七九二	二二・二五
一九二七年	二〇、〇〇〇	四、五八五、九二一	二五・〇〇
一九二八年	三二、〇〇〇	五、一七一、九九六	×一五・〇〇
一九二九年	三二、〇〇〇	三、七四三、八二七	一〇・〇〇



備考 × 増資に當つて普通株一株に對して新株一株の資本配當を行つて居る。

△ブリテイッシュ・セラニーズ社 (British Celanese, Ltd.)

設立 一九一八年(一九二三年十月現名に改稱)

資本金 一千四十五萬磅

工場所在地 Spondon

製法 アセテート法

日産 三萬封度

同社は英國政府が戰時飛行機の塗料として醋酸纖維素を製造せしめてゐた工場を、一九一八年半官半民の經營に移し、醋酸纖維素式に依る人絹製造會社として資本金三百五十一萬磅を以て設立せられたものである。後一九二三年現名に改稱した。資本金は當時六百萬磅であつたが、その後増資を重ね、現在一千四十五萬磅に達し、コ社に次ぐ英國第二の大人絹會社としての地位を確立した。拂込資本金は八百四十六萬餘磅に達して居る。

之に對しその収益は最近減退し、優先株には漸く配當を行つたが、普通株は無配の止むなきに至つた。次に最近の總収益を示す。

一九二七年度 一、六四二、二二二磅

一九二八年度 一、二三八、九〇五磅

即ち一九二八年度は前年度に對して四十萬磅以上の減收である。これ全く市價の暴落と、販路擴張の爲自發的に値下を斷行した爲めと、工場設備を擴張したるにその運用完からざりし爲の三理由によるものとされてゐる。同社は目下工場としてはスボンドンに一つあるのみであるが、一萬四千人の労働者を包容し、日産三萬封度の操業を爲しつゝある世界最大最古のアセテート人絹製造工場である。

### (二) 米國…… ヴイスコース社其他

米國々内の人絹製造會社数は二十五社にして、佛、英の多きには及ばないが、その投下資本額に於ては、前掲の通り一九二九年四月當時既に六千三百萬磅(加奈陀を含む)に達し、斷然他を壓してゐる。人絹事業は大經營によるを利とし、大經營を特色とする同國産業界に最も適合するは云ふ迄もない。伸び行く米國人絹業の一傾向として、稍古過ぎる嫌はあるが同國商務省の行つた工業調査による數字を左に掲げる。

一九二五年

一九二七年

労働者數

一九、一二八(人)

二六、三四一(人)



賃銀支拂高	一二一、九七五(千弗)	二八、六四九(千弗)
原料費	一八、四七七(千弗)	二五、七四七(千弗)

現在同國の人絹會社は大小を問はず何れも順調なる収益を擧げてゐる。輸入品の壓迫により昨年は二回の市價引下を見たが、依然他に比類のない高相場を維持し、且つ市況は強調を續け、會社業績は一般に非常に樂觀されてゐる。併し他面次に掲げる紐育取引所上場の同國主要五社人絹株の足取りを一九二六年平均を基準として見るに、こゝに於ても亦世界的不況の影響から超然たり得ないのを知る事が出来る。

米國主要五社人絹株の平均株價は(一九二六年平均一〇〇)

	最 高	最 低
一九二八年	一九三・五	一四五・四
一九二九年	一七六・四	八七・八
一九三〇年(四月)	九二・九	七八・二

同國人絹界の草分はヴィスコース會社であるが、その他は多く一九二五年以降に設立せられたものである。如斯短日月の間に一大企業的發展を完成した理由は同國産業繁榮の傳統的擁護武器である關稅の障壁にも依らう。又厩大且増進飽くを知らざる旺盛なる國內の一般購買力にも因るであらう。

次に同國に於ける代表的製造會社に就き畧述する。

△ヴィスコース社(Viscose Co.)

設 立 一九一五年五月

資 本 金 九千萬弗

工場所在地 Marcus Hook, Pa. Roanoke, Va. Lewistown, Pa.

Parkersburg, W. Va. Meadville, Pa. (ノブキト法)

製 法 ヴィスコース法

日 産 二十萬封度

同社は米國に於ける人絹製造會社の先驅者である。一九一一年其の前身會社に依つて製造を開始し、當時年産僅かに三十二萬封度であつたが、其後逐年異常なる發展を爲し、今日世界第一の生産力を有するに至つた。昨年度は六千二百萬封度を生産し、本年は七千萬封度と豫想され、常に米國總生産高の五割以上を占めて居る。

同社最近の生産高及び販賣高を年別に對照すれば、次の通り非常に順調裡に推移してゐる。(單位封度)

年 別	生 産 高	販 賣 高
-----	-------	-------



一九二四年	二八、〇〇〇、〇〇〇	二八、〇〇〇、〇〇〇
一九二五年	三五、〇〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇、〇〇〇
一九二六年	三七、〇〇〇、〇〇〇	三〇、六五〇、〇〇〇
一九二七年	四〇、九六〇、〇〇〇	四八、三九五、〇〇〇
一九二八年	五四、〇〇〇、〇〇〇	五四、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年	六二、〇〇〇、〇〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇
一九三〇年	七〇、〇〇〇、〇〇〇(豫想)	未詳

△デュ・ボン・レーヨン社 (Du Pont Rayon Co.)

設立 一九二〇年四月

資本金 一千万弗

工場所在地 Buffalo, N. Y. Old Hickory, Tenn.

Richmond, Va. (新設)

Waynesboro, W. Va. (新設)

製法 ヴィスコース法

日産 八萬封度

同社は著名なるデュ・ボン化学工業會社の一事業にして、ヴィスコース社に次いで産額の大を誇る世界有数の人絹會社である。目下操業してゐる工場は上記ツ

イスコース法に依る二工場丈であるが、尙リツチモンドにヴィスコース法工場、ウーネスボローにアセテート法工場が本年より操業を開始する筈であるが、本年度の生産高は二千七百萬封度と豫想せられてゐる。右兩社以外の米國に於ける主要會社並に其の生産高推定を示せば左の通りである。

社名	一九二九年	一九三〇年
チユバイズ社	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇
セラニーズ社	七、〇〇〇	八、〇〇〇
インダストリアル・レーヨン社	六、五〇〇	一一、〇〇〇
ベムベルグ社	二、三〇〇	四、〇〇〇
グランツストフ社	三、五七五	八、〇〇〇
エンカ社	一、〇〇〇	四、五〇〇
シヤチロン社	一、五〇〇	六、二〇〇
スケナンドア社	一、三五〇	三、二五〇

年産高 (單位千封度)



(四) 獨逸…グランツストフ社其他

人絹事業が今日の如き發展を遂ぐるに至つた功績の一半は獨逸國內に於ける研究、改良に負はなければならぬ。願れば先づ前世紀中にグランツストフ社が硝化綿法人絹製造工場を起し、後銅安法によりベムベルグ社が設立せられ、又大化學工業會社イーゲーが人絹部を設置するに及んで、上記三社を以て獨逸市場をコントロールするに至つた。生産高はグランツストフ社が總額の六割三分、ベムベルグ社が一割三分、イーゲー社が一割五分と云ふ振合である。右三社を加へ現在獨逸に於ける人絹生産會社數は二十二を算する。

之等獨逸人絹會社の平均配當率は一九二五年六分六厘であつたが、一九二八年には九分九厘に増加した。之に對し人絹業を除く其他化學工業會社の平均配當率は一九二五年三分一厘、一九二八年七分一厘に過ぎない。獨逸工業の生命であり、且誇りとする化學工業中にあつて、尙人絹事業が斯く優越してゐるのを見れば、その發展振りも亦略ぼ窺はれ得る。併し最近の世界的悲況は同國にも甚大なる影響を與へないでは濟まなかつた。元來同國の人絹關稅は他に比して非常に低

率であり且つ其の周圍を繞る諸國は殆んど輸出能力を持たぬものはない。爲めに外國品の侵入甚しく、市價の暴落を來し、諸會社の業態亦不振に傾いた。如何に經營の合理化を圖ると雖もダムピングの目標とされては健全なる發達は望み難い。斯くして目下同國では關稅引上論が喧しくなつて來た。この市價の暴落を移し、減收懸念より人絹株は一齋に慘落した。今伯林取引所相場を見るに、一割八分の高配當を續けてゐたグランツストフ社株でさへ低落に低落を重ね、昨年十二月の相場は前年の最低値の三分の一にも及ばない。(額面兩社株共百馬克)

グランツストフ社株      ベムベルグ社株

一九二八年中高値      八六七(マルク)      六六九(マルク)

同      安      値      五三〇      四一五

一九二九年八月五日      三九〇      三〇五

同      十月十五日      二七二      二二〇

同      十二月十八日      一五一      一四五

次に代表的會社に就て説明を試みる。

△フエライニヒテ・グランツストフ・ファブリケン社 (Vereingte Glanzstoff-Fabriken



A. G.)

設立 一八九九年九月  
 資本金 七千六百五十萬馬克  
 工場所在地 Oberbruch, Sydowstau  
 Kelsterbach, Oberburgh  
 製法 ヴィスコース法  
 日産 七萬五千封度

同社は十有幾箇の大小工場の合併聯合して成立せる獨逸最大の會社である。同社の歴史はとりもなほさず獨逸人絹界の歴史であり、同社の發展は直接同國人絹事業の發展を物語るものである。當初銅安法に依つて製造を開始したが、中途これを打ち切り、目下ヴィスコース系生産の爲め四工場を有し、その産額は常に獨逸總生産高の五、六割以上を占めてゐる。

生産高の急増と共に業績も亦大いに振ひ一九二四年一割配當、一九二五、六年は一割五分、一九二七、八年は一割八分と漸次高配を行つて居る。併し乍ら昨今市況の悪化と共に業績も亦舊の如くならず、これが株價に反映して前述の通り著しく

下落した。

△ベムベルグ社 (J. P. Bemberg, A. G.)

設立 一八九七年  
 資本金 四千萬馬克  
 工場所在地 Barmen-Rittershausen, Barmen-Ochde  
 Augsburg, Seigburg  
 製法 銅安法  
 日産 三萬三千封度

同社は銅安法工場としては世界最大にして、其の製品はアドラー絹糸として一般に知られて居る。品質主義の旗幟の下に最近細物需要擡頭の機運に乗じ、漸次人絹界に其の地位を確保すると共に社礎を固め、増資前資本金二千八百萬馬克に對し、一九二八年度營業收益は一千三百四十九萬馬克、配當は一割四分を續けるの活況を呈した。

併し最近の情報に依れば一九二九年度は減收の結果減配の見込の由である。本年に入つてよりは操業日數を一週三日間に限定し、又 Seigburg 工場の建設も



延期した。關係會社としてはグランツストフ社及びアメリカン・ペムベルグ社の外數社がある。

(五) 伊太利…スニア・ヴィスコサ社其他

伊太利に於ける人絹生産會社數は僅々十六社に過ぎないが、生産高の点に於ては世界有數の人絹生産國である。一般に同國人絹生産會社の昨年度業績は餘り良好でない。同國に於ける代表的の會社は何と云つてもスニア・ヴィスコサを挙げなければならないが、同社株式の倫敦並に紐育取引所に於ける一九二八、九兩年度の最高、最低相場及び最近の相場を見るに、次表の通り著しく低下傾向を辿つて居る。

倫敦市場	紐育市場	
一九二八年高値	四八志	九弗五〇仙
一九二八年安値	二六志六片	七弗五〇仙
一九二九年高値	二九志一片½	五弗六〇仙
一九二九年安値	一一志一〇片½	二弗
一九二九年末	一五志九片	二弗一〇仙

△スニア・ヴィスコサ社 (Societa Nazionale Industria Applicazioni Viscosa "Snia-Viscosa")

設立	一九一七年七月
資本金	十億リラ
工場所在地	Venario Reale, Cesano Moderno Cognio Varese, Pavia Abbadia de Stura (ライター製造)

製法	ヴィスコース法
日産	十三萬封度

同社は現在伊太利最大の人絹會社である許りでなく、従業員二萬五千人を使用する世界有數の大人絹會社である。その生産高増加の足取りを見れば、この二三年間稍歩調を緩めた感があるが、尙且つ同國總生産高の六割以上に該當する。同社累年の生産高は次の通りである。(單位キログラム=二・二封度)

年別	年産
一九二〇年	五三八、五三五



一九二一年	九一八、一五三
一九二二年	一、六七九、七一五
一九二三年	二、九九四、二七四
一九二四年	五、三〇一、四二七
一九二五年	九、五〇六、四七五
一九二六年	一〇、五〇〇、〇〇〇
一九二七年	一三、〇〇〇、〇〇〇
一九二八年	一五、〇〇〇、〇〇〇

右の通り莫大なる生産高を持つてゐるが、一九二七年リラ價の大變動後爲替關係上より、販路は主として海外に求められ、八割以上は輸出に振向けられた。一九二四、五の兩年は三割配當を行つた程の業績を挙げたものが、爾來無配當を續けるの止む無きに至つたのみならず、一九二六年十一月十億リラを七億五千萬リラに減資して、更に新株式を發行、十億リラに増資、次いで一九二七年再び八億リラに減資し、同時に新株式發行、十億リラに増資、都合四億五千萬リラを切捨てた。以後業績稍見直し、二七年の純益二千九萬九千三百九十九リラに對し、一九二八年度は七

千二十二萬八千八百九十八リラを計上したが、昨年度は半減し三千五百萬七千六百六十二リラに止つた。併し償却の足らざる事は一大缺點と目され、無配は當然である。最近は同國第二の人絹會社であるシャチロン社との合併により大整理を斷行する様な風聞さへあつたが、計畫は一時種々の事情で頓座を來した。然し其後折衝の結果同社との間に生産協定が締結せられた。

### (六) 佛白和三ヶ國の人絹會社

佛國は生産高より見れば第五位に在り、資本總額に至つては米國の僅か五分の一にも及ばないが、會社數より見れば四十三社を數へ第一位にある。且つ之等が多くは小規模經營にして、然かも相當の成績を收めてゐる點は他國と大いに趣を異にして居る。大戰前でも利益を擧げてゐた會社もあつたが、堅實な収益状態に入つたのは何と云つても一九二一年以後の事である。殊に過去三年間に於ける進歩は實に急速であつて、既設會社の成功に眩惑され、新會社の設立は英國を凌駕して居る位である。同國は賃銀比較的低廉にして、製造原價も亦割安なる點と、純絹の扱ひに慣れてゐる關係上、技術比較的優秀なる點が、他國の企及し能はぬ所て



あらう。

白耳義人絹界はチュビーツ社によつて代表せられ同國斯業界の消長は取りも直さず同社の消長と云つても過言ではないが最近同社を始めとし各社何れも多大の減收を示した。

同社の日産は硝化綿糸六千疋、ヴィスココース糸四千疋、アセテート糸二千疋計一萬二千疋であるが、近着の情報に依れば硝化綿法は廢止し他の二法に専念する由である。

和蘭に於ける人絹生産額は殆んど全部同國の二大人絹會社エンカ社とブレダ社の二社に依つて占められて居る。エンカ社は別掲の通り昨春グランツストフ社と合同し、ゼネラル・レーヨン・ユニオン（通稱AKU）と改稱せられた。故にこの二社を略述する事は直ちに和蘭人絹界の趨勢を示すものである。兩社累年生産高の消長は次の通りである。（單位封度）

	エンカ社	ブレダ社
一九二五年	五、〇〇〇、〇〇〇	不詳
一九二六年	一〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

一九二七年	一三、〇〇〇、〇〇〇	不詳
一九二八年	一五、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇

右生産高中エンカ社は九割七分を輸出に振向けてゐるが、近年海外市況惡化したるにも拘らず總益金は年々増加し、一九二八年度一割八分の配當を行つて居る。



## 各國人絹市價の變遷

世界的人絹市價の趨勢は、何と云つても下落一點張りであつた。試みに最も手近な米國の例を取つて見るに、一九一八年、一五〇のA品が四弗五〇仙に始まり一九二〇年（大正九年）には一旦六弗に迄乗せ上つたが、爾來殆んど毎年下げ足をとり、一九二九年六月には一弗一五仙となり現在に及んで居る。

一九二〇年好況時の最高記録六弗に比すれば、現在の相場は、實に其の五分の一にも達せない。歐洲大陸に於ける實情も下落一點張り云ふ上に於て變りはない。であるからこの意味に於て過去に於ける人絹市價の世界的大勢は之を一本調子の棒下げに終始したと云つてもよい譯である。勿論之は大勢の上から斯く見らるるのであつて、今少し細かく觀察するならば同じく値下りであつても其の歩調は全然同一とは云ひ得ない。それは各國人絹界が各々異つた環境の下にあるのであるから、寧ろ當然の事であらう。

例へば極く近年の實狀に就て見るも、英國に於て一時安定の模様に見えた人絹市價が漸く崩れかゝつたのは一九二八年三月ブリテイッシュセラニーズ社の値下に始るのであるが、勿論同社の製品はアセテート絹であつて、直接ヴィスコース

糸に影響あるべき筈は無いのであるが、これをキツカケとして八月には從來堪へに堪へてゐたコートルツが、終に値下を發表するに至つた。續いて九月にはセラニーズの第二回、十一月には同じく第三回、十二月にはコートルツの第二回目の値下となり、八年末より九年初期へかけて終に歐羅巴の天地に人絹界の恐慌を惹起するに至つたのであるが、海を隔てて米國に於ける事情は、これとは聊か其の歩調を異にして居つたと見られる。即ち米國に於て漸く下げ相場となつたのは一九二九年の二月である。續いて六月に定價の改正を行つて居るが、英國に於て漸次下落の趨勢を見せて來た前年中は、擬乎堪へて一回の改正をも敢てしなかつた。實際當時の實狀は値下しなくとも持ち堪へ得たのであらう。もつともこの間八月にはブリテイッシュセラニーズ社と姉妹關係にあるアメリカンセラニーズ社のアセテート絹糸の値下が行はれたけれども、勿論大勢を左右するには至らなかつたのである。

斯様に各國事情は異にすれども、人絹市價の變遷は下落一本調子に終始し、殊に一九二八年下期から翌九年以上期へかけて甚しかつたのであるが、これを一轉機として大勢は寧ろ上向きの空氣が餘程其の濃厚さを増して來た様に觀察される。と云ふのは一九二九年下期以後最早世界的に市價は確實に安定を持續して居り



殊に

(一) 各個人絹糸の生産原價はこれ以上の値下りには假令一流の人絹會社と雖も到底堪へ得られざる事が明らかになつて來た事。

(二) 國內並國際的カルテルがこの機會を利用して面目一新漸く鞏固となりつゝある事。

等の理由に依つて、理論的に見るも下げ餘地の無い事は明白であるから、人絹界將來に於ける製法の簡易化等による低下は別とするも、こゝ當分は大勢は上向きと見るのが至當であらう。

以下英、佛、獨、伊、更に米國の近年に於ける人絹市價の趨勢を各國別に觀察して見る事とする。

### (一) 英國市場

先づ英國に於ける今回の市價崩落のキツカケを爲したものは、一九二八年三月二十九日のブリテイッシュ・セラニーズ社の値下である。勿論アセテート絹と、需要の中心であるツイスコース糸とでは、需要状態も異つて居る譯であるが、アセテート絹の値下は漸次ツイスコース糸價への轉寄せとなり、勢ひツイスコース糸市

場にも動搖を來さざるを得ない。殊にセラニーズ社の値下は三月、九月、十一月と矢繼早に行はれたのであるから堪らない。セラニーズ社三月二十九日より實施の第一回の値下額は左の通りである。

一〇〇を除く各デニール 一封度に付き 一志  
一〇〇デニール 同 六片

續いて八月には子會社たるアメリカン・セラニーズ社の値下を見たが、間もなく九月四日には第二回の改正を見るに至つた。然かも第二回目のもは前回に比して稍其の値下率が大規模である。即ち各デニールに亘つて六片乃至二志の範圍に及び甚だしきは同年一月に於ける賣値に比して約二割五分方の値下げに當つて居るものもある。

左にブリテイッシュ・セラニーズ社の主要デニールに就て新舊賣値を比較して見やう。(凡て一封度當りの値段)

#### 緯 糸

デニール	舊	新	差 額
七五	一一志〇片	一〇志六片	六片
一〇〇	九志六片	八志六片	一志



一一〇	八志六片	八志〇片	六片
一四〇	八志〇片	七志〇片	一志
一五〇	七志九片	七志〇片	九片

經系

七五	一三志〇片	一一志六片	一志六片
一〇〇	一一志〇片	九志〇片	二志〇片
一二〇	一〇志六片	九志〇片	一志六片
一四〇	一〇志〇片	八志〇片	二志〇片
一五〇	九志九片	八志〇片	一志九片

即ち右表の通りであるが、今回の値下に就て特に著しい現象は、値下の程度が緯糸よりも經糸に對して大きかつた一事である。尙又經糸、緯糸共に一〇〇、一四〇デニールの如きアセテート絹として最も需要の多い標準デニールに對して、特に十分の値下を敢行した事は共に興味深いものがある。

因に斯かる大仕掛けの値下原因に就ては、當時同社スボンドン工場に於けるストツクと何等かの關係があるかの如く噂されて居つたが、それは當らない。又一説には當時コートルツ社がアセテート絹の製造を開始せる爲め、コ社製品との猛

烈なる競争に備へんが爲めとも觀察され、更にブリテイッシュアセテートシルク社並にセルローズアセテートシルク社等のアセテート絹専門の新設會社に對する明白なる挑戦的行爲とも信ぜられて居つた。

續いて中一月を置いて十一月十四日の値下となつた。この前後より英國並に大陸方面に於けるアセテート絹の需要は漸く本筋に入つて來た。これに對してこの際更に一層の糸價低下に依つて需要を喚起しやうと云ふ議有力に行はれ終に第三回目の改正となつたのであるが、これが爲めに後述せるが如くツイスコース糸市場が彌が上にも擾亂されて了つた。

今回の値下は各デニールに就て六片乃至一志六片の範圍に於て行はれたもので（十一月十四日より實施）これを三月の第一回、九月の第二回、更に今回と順次主要デニール普通品に就て示せば左表の通りである。

デニール	三月第一回	九月第二回	十一月第三回
七五	一一志〇片	一〇志六片	九志〇片
一〇〇	九志六片	八志六片	八志〇片
一四〇	八志〇片	七志〇片	六志六片

然してこれに依つて特に注目を要する點は、斯かる矢繼早なる値下に依つて、漸



次ヴィスココース絹の價格に接近するに至つた一事である。今當時英國に於けるヴィスココース絹の相場と、右値下後のアセテート絹の賣値とを比較對照して見やう。(ヴィスココース絹は總卷A級品の相場、最高と最低を示す。)

デニール

アセテート絹

ヴィスココース絹

七五

九志〇片

九志三片——九志六片

一〇〇

八志〇片

七志九片——八志〇片

一四〇

六志六片

六志六片——六志九片

右表に就て見らるゝ通り、實に兩種人絹が鞘寄せして來たと云ふのみではない。中には例へば七五デニールの如きは寧ろヴィスココース絹の方が高値にあると云ふが如きは、これに依つてツ糸の市價を脅かす事著しく、又一の奇現象たるを失はない。勿論ツ糸の相場は總卷、軸卷等其の種類極めて多端に亘ると共に其の相場もまち／＼であるから、これを以て直ちに總てを推す譯に行かないけれども以て一端を窺ふに足ると思ふ。

セラニーズ絹値下の状態は、大體前述の通りであるが、これと相前後して行はれたコートルツ社の値段改正は英國に於けるヴィスココース糸を代表するものであり、殊に其の影響は大陸方面に對しても亦決して尠しとせない。

元來コートルツの製品は、其の品質優良なる點に於て既に斯界に定評あるものであり、従つて其の相場の如きも、一般市價に對してある意味に於て超然たるものがあつたが、セラニーズ社製品の下落に依つて、流石の牙城も終に一九二八年八月十一日左の通りの値下を發表した。

經糸各デニール 一封度に付き 六片乃至二志

續いて前述の通り九月並に十一月にはセラニーズの値下あり、これに依つて一般の値下機運は一層醸成せられたかたちとなつた。加ふるに

(一) 既にこの頃より大陸品殊に伊太利、チェッコ、スロバキア等の比較的安値物の刺戟顯著となりたる事。

(二) コートルツ社は銳意コストの低下に務めて居つたが、最近に至り一層大量的生産に依つて、採算點が多少低められたる事。

等の事情に依り、十二月中旬には再び同社ヴィスココース糸の値下を見るに至つた。其の率は各デニールに依つて夫々異つて居るが、一片半より多きは一志三片に亘り、平均約六片方の低落である。實施期は十二月一日に溯つて行はれる事となつた。標準デニールの新舊定價は左表の通りである。(但し一封度當り)

總 卷 舊 新 差 額



七五	九志〇片	七志九片	一志三片
一〇〇	七志六片	六志七片半	〇志一〇片半

軸 卷

一四〇	六志九片	六志三片	〇志六片
一五〇	六志六片	五志九片	〇志九片
一七〇	六志三片	五志六片	〇志九片

右ツイスコース糸新定價を更に十一月に行はれたアセテート絹第三回の改正  
 値段と比較對照して見るに、

デニール	アセテート絹	ツイスコース絹
七五	九志〇片	七志九片 (但總卷)
一〇〇	八志〇片	六志七片半 (同右)
一四〇	六志六片	六志三片 (但軸卷)

右表の通りであるが、これに依つて見ると、一時殆んど値段の點に於て其の差異  
 を認め難かつた兩糸の開きも、若干のゆとりを持つ様になつて來た。

英國に於ける下げ相場は大局から見て、最早これを以つて一段落を告げたかた  
 ちである。のみならず、アセテート絹の如きは翌一九二九年三月に至つて俄然値

上を發表するに至つた。

即ちビーム巻き經糸四五、七五、一〇〇、一二〇各デニールに限り一率に一封度に  
 付き一志の値上である。但し緯糸は從來の儘と云ふ事である。結局經緯糸の定  
 價は左表の通りとなつた。

デニール	經 糸	緯 糸
七五	一一志	九志
一〇〇	一〇志	八志

尙値上に至つた主なる理由に就ては

- (一) 既に三回に亘る値下に依つて一般の需要を喚起した上は、最早目的の一部  
 は達したのであるから、この上値下による苦痛を忍ぶ必要は無くなつた事。
- (二) 緯糸に對して經糸の値下率は、兩糸生産原價の關係から見て稍過大であつ  
 た事。

等であらう。殊にツイスコース絹糸との正面衝突に依つて、形勢不利と見てこつ  
 た退却準備も見られない事はない。

然るに其後一九三〇年一月廿四日に至つて同社は更に一封度に付き一志乃至  
 二志の値下斷行を發表するに至つた。即ち左表の通りである。(一封度に付き)



デニール	經糸	緯糸
七五	九志五片	八志六片
一〇〇	九志	七志九片
一五〇 A		六志三片
一五〇 B		五志三片

之を要するに英國に於ける人絹市價は一九二八年中に於て棒下げに下げ翌九年に入つて情勢稍緩和せられたけれども市況は依然沈滞し切つたものであつた。之は云ふ迄もなく政府の關稅撤廢問題に關する方針決定せず取引縮少し業界に活氣を缺きたるためである。然るに其後四月十四日豫算總會に於て藏相スノーデン氏の發表した關稅据置の聲明は一時的にもせよ好感を以て迎へられ市況は目下好轉を報ぜられつゝある。

附記 一九三〇年四月十六日附在ロンドン松山商務參事官發の電報に依れば、コートルツ社は品質を單純化し生産費を節約せる結果一封度に付き三片乃至一志六片の値下を發表せる由であるが、電文簡略なる爲め各デニールの値下額は未詳である。

### (二) 佛國市場

佛蘭西に於ても亦人絹市價の下落は一九二八年より翌九年へかけて特に甚し

かつた。今試みに一九二八年一月の國內に於けるヅイスコース糸の市價と同年末十二月に於けるそれを比較對照せんに、(單位晒品一キログラム當りフラン、一キログラムは二・二封度) デニール 一九二八年一月 同年十二月

一等品	二等品	一等品	二等品
五〇	一一〇	一〇四	九四
七〇	一〇〇	八四	七六
一〇〇	六九	六〇	五三
一五〇	五一	四二	三九
三〇〇	四四	三六	三三

右表の通り例へば一五〇デニール一等品にあつては、約二割方の低落を示して居る。この主なる原因は、伊太利、白耳義等の比較的廉價品の影響を受けたる事は云ふ迄もない。而してこの佛國人絹の値下は更に大陸に於ける人絹市價の一般的趨勢を一層促進せしめた。

然るに佛蘭西に於ける市價低落の步調はこれを以て足れりこそせず翌一九二九年二月頃に及んで又々各デニールに付き四フラン乃至七フランの値下を見るに至つた。直接原因とみらるべきは、例の安値物伊太利品が相變らず佛國市場への



流入を止めず市場を擾亂せる爲めである。元來伊太利人絹は品質劣等の折紙を  
つけられて居るけれども頗る格安にして例へば一五〇デニール品一疋當りマル  
セーユCIF値段一六五リラ（二二・一フラン）位にしてこれを佛國製品の最下  
級品二八乃至二九フランに比するも尙相當の開きを有する爲め所詮價格の點て  
は佛國品は伊國品に對して競争不可能となり其の爲めこれが對抗策として從來  
數時の値下を敢てしたるに拘らず今回又々引下を斷行した譯である。値下後の  
相場は左表の通りである。（單位一キログラム當りフラン、一キログラム二・二封度、一フラン一平價約八錢）

デニール	新 相 場	値 下 額
	一等品	二等品
五〇	九八	八八
七〇	七七	六九
一〇〇	五五	四八
一五〇	三八	三五
三〇〇	三二	二九
	一等品	二等品
	六八	六
	七	七
	五	五
	四	四
	四	四
	四	四

今これを参考の爲めに一封度當り邦貨に換算すれば左表の通りである。

五〇	三圓五六錢	三圓二〇錢
七〇	二圓八〇錢	二圓五一錢
一〇〇	二圓〇〇錢	一圓七五錢
一五〇	一圓三八錢	一圓二七錢
三〇〇	一圓一六錢	一圓〇五錢

右表に就て見らるゝ通り、一五〇二等品一圓二七錢と云ふが如きかなり安いも  
のである。もごく佛國に於ける人絹の生産費は伊太利と共に之を各國に比し  
て頗る格安なるものと見られて居り、一封度當り邦貨換算九十四、五錢から一圓四  
五錢見當と云はれて居るが斯かる低廉なるコストに依つて初めて斯かる安相場  
も出現する譯であつて、他國に於ては到底堪へ得る所ではない。勿論佛國に於て  
も、一流會社すら採算割れを唱ふるところ多く、之以上多くの下値が堪へ得べくも  
無い事は既に明白である。要するに佛國の市價も一九二九年五六月を境として  
漸次安定の氣配を見せつゝあると云つてよい。

### (二) 獨逸市場

獨逸市場は各國に較べて關稅の障壁が低い爲め、國內の市場相場は尠くとも伊



太利和蘭等の輸入物を度外に置いては立ち得ない實狀にある。元來獨逸國內の需要は今尙比較的下級品が主流を占めて居るのであるが、これに反して自國內に生産せられる高級品は主として海外へ輸出せられつゝある。

この事實は左表、輸出入累月平均相場に依つても明かである。(一キログラムに付單位マルク、一キログラム二二封度 マルク平價約四十八錢)

輸入人絹平均相場

月	一九二八年	一九二九年
一月	九・二八	七・八三
二月	九・〇四	七・八六
三月	九・〇二	七・二九
四月	九・〇一	七・〇七
五月	九・〇一	六・六六
六月	九・〇一	七・〇〇
七月	九・〇一	六・八三
八月	九・七三	
九月	九・七二	

十月	八・〇九
十一月	七・七六
十二月	八・一二

輸出人絹平均相場

一月	一一・六八	一一・五二
二月	一一・〇八	一〇・三八
三月	一〇・八七	一〇・四三
四月	一〇・七五	九・六二
五月	一〇・四七	九・五五
六月	一一・〇一	九・九五
七月	一一・一八	九・一八
八月	一一・四六	
九月	一一・五六	
十月	一一・〇八	
十一月	一〇・六〇	
十二月	一〇・八四	



右表に就て見らるゝ通り、一九二九年七月の輸入並輸出相場は前者六・八三マルクに對して後者九・一八マルクを示して居り、其の差はかなり著しいものがある。尙其の下落率に就て見るも兩者の間に相當の開きを發見する。即ち一九二八年一月に對する翌年七月迄の下落率は、輸入方面に於て二割六分に達するに反して、輸出方面は稍低率で二割一分を示して居る。

即ちこの數字の示す事實は、輸入品が主として一般向きの普通品にして汎歐羅巴的値下傾向の影響を餘分に蒙つたに反して、輸出品は比較的高級品が其の主流を占めて居る爲め、全然影響範圍外にあつた譯ではないが、影響稍輕微で濟んだと云ふ事を裏書して居るものである。

尙一九二九年下期に於ける各社協定相場は左表の通りである。(一キログラムに付マルク)

一〇〇デニール B	八・五〇
一二〇 同 B	七・三〇
一五〇 同 B	七・〇〇

然るに右相場は殆んど有名無實であつて、各社は別に Partieware (Seconds の意) と稱する名義の下に協定價格より安い相場を發表しつゝある。例へばグランツストフ社の發表せる Partieware は左の通りであるが、協定相場よりも八分乃至一割二

分見當の安値を示して居る。

一〇〇デニール B	七・五〇
一二〇 同 B	七・〇〇
一五〇 同 B	六・四〇

尙序でに獨逸に於けるベムベルグ系並アグファ系の一九二九年下期一般相場を示せば次の通りである。(一キログラムに付マルク)

ベムベルグ系

デニール	單糸數	機織用	靴下用
八〇	六〇	二〇〇〇	—
一〇〇	七五	一九〇〇	—
一二〇	九〇	一五〇〇	二二・〇〇
一五〇	一一二	一三・五〇	一九・〇〇

アグファ系 (普通糸)

デニール	A	B	C
七五	一二・〇〇	一〇・〇〇	八・五〇
九〇	一〇・五〇	八・五〇	七・八〇



一二〇	八・〇〇	七・三〇	六・五〇
一五〇	七・三〇	七・〇〇	六・三〇

(四) 伊太利市場

既に周知の通り伊太利は徹頭徹尾人絹の輸出國であつて、國內生産の大半は獨米並東洋各市場への輸出に振り向けられて居る。然かも近年に於けるそれは概ねダムピングである。

其の爲め其等の輸出値段は、往々にして國內市場相場を下廻つて居る事が珍らしくない。否殆んど常に下値にあると云つても過言ではない。試みに一九二九年下期に於ける國內市場相場並に輸出向相場を掲げやう。

國內相場

デニール	一疋に付き	封度當り邦貨換算(但平價)
一〇〇	三二リラ	一圓五四
一二〇	二八リラ	一圓三四
一五〇	二五リラ	一圓二〇

輸出相場 (F.O.B.ゼノア)

デニール	一封度に付き	邦貨換算(但平價)
一〇〇	二志八片	一圓三〇
一二〇	二志四片半	一圓一六
一五〇	二志三片	一圓一〇

尙一九二九年上期に行はれた伊國人絹共同販賣機關の設立に依つて國內相場は最早安定を持續して居る。

(五) 米國市場

先づ個々の値下事情を説明する前に、米國に於ける近年の市價趨勢を最も簡明に示す爲めに、最近約十年間の建値足取表を掲げやう。標準は一五〇デニールA品である。

改正年月	弗仙
一九一八年六月	四・五〇
一九一九年九月	五・三〇
一九二〇年二月	六・〇〇 (最高大正九年)
同 六月	五・〇〇



同	九月	四・〇〇
同	一〇月	二・五五
一九二二年六月		二・七〇
同	九月	二・八〇
一九二四年二月		二・〇五
一九二五年二月		二・〇〇
一九二六年七月		一・六五
一九二七年一月		一・四五
同	三月	一・五〇
一九二九年二月		一・三〇
同	六月	一・一五

右表に就て明らかなる如く、一九一八年六月の四弗五〇仙をスタートとして翌年五弗三〇仙、翌々一九二〇年六弗と上りつめ、之を最高記録として其後は年々急激なる下げ相場となつた。殊に一九二〇年には前後四回の改正を行ひ、最高記録六弗から二弗五五仙と下落した。實に人絹史上稀に見る下げ相場と云はなければならぬ。

元來米國の人絹相場が各國に比して常に最高位を保ちつゝあるのは何と云つても同國の繁榮の持續に俟つ處多いのは云ふ迄も無い。けれども一面同國に於ける生産費が歐羅巴諸國のそれに比して高位にある事も亦見逃し得ない。最近發表せられたるものに依れば、年産一千二百萬封度の生産を基礎とせる一五〇デニール、ヰイスコース糸の一封度當りの製造原價（償却費を含まず）は、六〇仙四四を要する由である。これに對して歐洲大陸諸國の製造原價は概ね、邦貨に見積つて一圓或は一圓そこくと云ふのが、當らずと雖も遠からぬらしいから、米國に於ける原價は兎に角決して安くはないと云ふ事が出来る。今參考迄に米國某誌に發表せられた其の内譯を茲に示して見様。

原料（バルブ、藥品類、油其他）	一六仙六一
間接費（用水、燃料、燈用、動力其他）	八・五三
勞力費（準備、製造、繰返、選別、荷造諸工程賃銀）	三一・三〇
修繕費	四・〇〇
計	六〇・四四

兎も角米國の人絹相場は世界的に高値にあるものであるが、然しそれでも近年著しく一般のレベルに近づきつゝあると云ふのは、一つに米國市場が伊、獨、佛其他



諸國製品の洗禮を受くるに至つたからである。固より米國々内の生産高は昨一九二九年度に於て約一億二千萬封度を越え、これに對して輸入人絹は大約一千五六百萬封度に達するのであるから、これ等比較的安い輸入品の國內市場に及ぼす影響は決して等閑に附する事は出来ない。

今其の證左として一九一八年以來の外國人絹の米國に於ける一封度當りの平均輸入原價を掲げやう。前記累年の相場表と對照して比較的低位を保ちつゝ、略ぼ同一の歩調を辿つて居るのを看取する事が出来る。之取りも直さず、輸入品の相場が國內市場を常に牽制し來つたものに外ならない。即ち左表の通りである。

年 別	一封度當り弗
一九一八年	二・六九
一九一九年	四・〇六
一九二〇年	三・四四
一九二一年	一・六六
一九二二年	一・八七
一九二三年	一・七三
一九二四年	一・三四

一九二五年	一・一七
一九二六年	〇・八八
一九二七年	〇・八四
一九二八年	〇・八五
一九二九年	〇・七七

要するに歐洲に起つた糸價低下の一大傾向は、米國にも亦それ相應の波紋を描くに至つた。以下稍詳細に亘つて最近に於ける値下の事情を説明するであらう。一九二八年中は前掲累年の相場表にも見らるゝ通り、一般標準物の値段改正は一回も行はれなかつた。只英國に親會社を有するアメリカン・セラニーズ會社が八月十日より値下を實施して居る。然かも其の値下率はかなり思ひ切つたものであつて、四五デニールの如きは一弗、比較的割の悪かつた三〇〇の如きにあつても五〇仙と云ふ頗る急進的なものである。

即ち四五デニールにあつては二割五分、三〇〇にあつても殆んど二割に近い。今左に新舊定價を比較して見る。(單位弗)

デニール	舊	新	差 額
四五	四・〇〇	三・〇〇	一・〇〇



七五	三・二五	二・五五	〇・七〇
一〇〇	三・一五	二・四〇	〇・七五
一五〇	二・九〇	一・九〇	一・〇〇
二〇〇	二・七五	一・九〇	〇・八五
三〇〇	二・七〇	二・二〇	〇・五〇

即ち各デニールの値下額に就て見るに、四五デニールの一弗は別として一五〇、二〇〇等比較的需要旺盛なる可き標準物に對して、殆んど四割或は三割に近い値下を敢行せる事は、漸く物興の端緒に付いたアセテート絹の消費に對して大いに注目を惹いた譯である。然し乍ら一面當時親會社たる英國のブリテイッシュセラニーズ社の賣値に比すれば、尙概して割高の感を免れなかつた。今當時値下後の米セラニーズ品と英セラニーズ品の賣値を比較して見るに、

デニール	英 品	米貨換算	米 品
七五	一一志〇片	二弗六七	二弗五五
一〇〇	九志六片	二弗三〇	二弗四〇
一五〇	七志九片	一弗八八	一弗九〇
三〇〇	六志九片	一弗六四	二弗二〇

右表の通り七五デニールを除く外は英米間にかかりの開きがある。殊に三〇〇の如きは五六仙の差を生じて居る。

右セラニーズ品の値下に依つて、ツイスコース絹糸の賣値にも影響あるべきを豫想せられて居つたが、ツイスコース糸の有力會社は同年中は遂に値下の舉に出でなかつた。然して愈々値下を發表したのは一九二九年二月である。この間海を隔て、歐洲ではレコード破りの人絹界恐慌が襲來せる事は前述の通りである。ツイスコース並デュボンの米國に於ける二大會社の値下は二月二十五日より實施せられた。値下率はツイスコース普通品に就て五仙乃至二〇仙、デュレスコ(ツイスコース社)等の特殊品にあつては三〇仙に及んだものもある。普通品の新定價は左表の通りである。(一封度當り弗)

デニール	單糸數	一等品	二等品
七五	一八	二・五〇	一・七〇
七五	三〇	二・六〇	一・七五
一〇〇	一八	二・一〇	一・四〇
一〇〇	四〇	二・二〇	一・六五
一二五	一八	一・五五	一・二五



一二五	三六	一・六〇	一・二五
一五〇	二四	一・三〇	一・二〇
一五〇	三六	一・三五	一・二五
一五〇	六〇	一・五〇	一・二五
一七〇	二七	一・三〇	一・二〇
二〇〇	六〇	一・五〇	一・二〇
二〇〇	三〇	一・二五	一・一五
三〇〇	六〇	一・四五	一・一五
四五〇	四四	一・一〇	一・〇五
六〇〇	五四	一・一〇	一・〇五
九〇〇	七二	一・一〇	一・〇五
九〇〇	一〇〇	一・一〇	一・〇五

尙特殊品デュレスコの新定價は左表の通りである。

デニール	單糸數	一等品	二等品
七五	三〇	二・七〇	一・七五
一〇〇	四〇	二・三〇	一・五〇

一二五	三六	一・七〇	一・二五
一五〇	二四	一・四〇	一・二〇
一五〇	三六	一・四五	一・二〇
一五〇	六〇	一・六〇	一・二〇
一七〇	六〇	一・六〇	一・二〇
二〇〇	六〇	一・五五	一・一五
三〇〇	四四	一・二〇	一・〇五

尙一五〇デニール七五本單糸のデュレンザー一等品は一弗六五仙である。

今回の値下は英國並大陸方面に於ける價格低下の潮流に引き入れられたと見るべきは勿論であるが、前年十二月ヅイスコー社親會社たるコートルズ社の値下以來米國市場にあつても漸次値下機運が醸成され、この機運がヅ、テ兩社を動かして、四月一日より實施すべく三月一日これを發表の肚であつたが、一般市場は噂に噂を生んで、極めて不安人氣に驅られた爲め遂に斷然豫定を繰り上げて二月下旬發表と共に實施を見た譯である。

右値下と同時に従來の格付ABC等の等級を廢して單に一等品二等品の二種類とする事とした。この格付變更に決した原因に付ては近來米國に於ける一流



會社の製品々質は漸次向上して來た爲め、從來のC級品の生産殆んど皆無となり、従つてA B品のみとなつた關係上Aを一等品Bを二等品と改めたに過ぎない。  
 尙右ツイスコース。デュボン兩社改正に引續いてアメリカン・グランツ・ストフ・ス  
 ケナンドア等其他の諸會社も相次いで同様の値下を發表した。

六月再びデュボン(六月十七日實施)を手始めに、ツイスコース社(六月十八日實施)等の値下が發表せられた。即ち一五〇デニール一級品標準物に就て云へば、一弗三〇仙から一弗一五仙に下落したのである。原因は近來猛烈な勢ひで流入しつゝある伊太利、獨逸、佛蘭西、和蘭等の安値物の壓迫を蒙つた爲めである。(單位封度當り弗)

デニール	單糸數	一等品	二等品
七五	一八	二・三五	一・六五
七五	三〇	二・四五	一・七五
一〇〇	一八	一・九五	一・六〇
一〇〇	四〇	二・〇〇	一・六五
一二五	一八	一・四五	一・二五
一二五	三六	一・五〇	一・三〇
一五〇	二四	一・一五	一・一〇

一五〇	三六	一・二〇	一・一五
一五〇	六〇	一・三五	一・三〇
一七〇	二七	一・一五	一・一〇
一七〇	六〇	一・三五	一・三〇
二〇〇	三〇	一・一〇	一・〇五
二〇〇	六〇	一・三〇	一・二五
三〇〇	四四	一・〇〇	〇・九五
六〇〇	七二	一・〇〇	〇・九五
九〇〇	一〇〇	一・〇〇	〇・九五

尙デュレスコは各デニール共五仙増。

デュレンザ 一五〇デニール (單糸數七五本) 一級品は一弗五〇仙。

附記 一九三〇年五月五日付シャール・ナル・オ・ア・コム・マール紙に依れば米國ツイスコース社は今回五〇デニール乃至一二五デニール一封度に付き五仙乃至五十仙の値下を發表した。尙實施期は五月一日に逆つて行はれる。



## 人絹カルテルの國際化

### (一) 人絹會社の世界的連鎖

一九二八年下期に於て歐羅巴人絹界を襲つた人絹市價の大崩落は、好況に恵まれて續出した群小諸會社にとつては、洵に青天の霹靂であつた。然し乍らこの市價暴落は、僅に一部新設諸會社にとつての打撃のみではなかつた。歐洲に於て相當古い歴史と經驗を有する有數の大會社にとつても亦尠からぬ痛手であつた。國內諸會社間の協定、延いては國際的人絹會社のカルテルはこの時期を境として、手つ取り早く言つて終へば、人絹界の一流行となつて了つた。

勿論これ以前に於ても人絹界にカルテル類似のものが存在しなかつたこと云ふのではない。そればかりではない、歐米に於ける人絹會社は其の數殆んど二百に垂とするのであるが、其等の悉くが、夫々の系統を持つて居り、これを洗ひ立て、みれば、根元は僅々三、四に止まると云ふも敢て過言ではない。言ふ迄もなく其等連鎖の密、不密の程度に就ては、これを茲に一樣に論ずる事は出來ないけれども、兎に角同一資本系統に屬するもの、更に技術交換或は販賣協定に依つて連結するもの

を一々辿つて行くならば、終末に於て其の根本は、英國のコートルツ、獨逸のグランツストフ、伊太利のスニア・ヴィスコサ、和蘭のエンカ（ゼネラル・レィオン合同會社と改稱、後章参照）此等四大會社とならざるを得ないのである。既に知らるゝ通り此等の四社は、尠くとも現在世界に於ける有數の人絹製造會社であり、且つ現實に於て世界人絹界の大勢を左右し得ると迄は行かなくとも、大勢に何等かの影響を齎し得るだけの實力を有するものである。殊にコートルツ社の如きは名實共に世界に於ける第一流の人絹會社であつて、社長サミュエル・コートルド氏の着實眞摯なる經營に依つて凡ゆる點に於て人絹界の大御所たるを失はない。

グランツストフも亦大陸に於て確固たる地歩を占めて居る。エンカにしても同様である。伊太利のスニア・ヴィスコサに至つては十億リラの資本金と日産約十數萬封度の能力を有して其のスケールは如何にも歴大であるが、打續く不況の爲めに最近左前になつた感がある。對支輸出の大手筋であつて、本邦にとつても頗る御馴染の深い會社であるが、此程同國に於て第二位の會社であるシャチャロン社に合併さるゝなどの風評を生んだ程である。兎まれ其の大量的な生産に依つて世界各地の消費市場に於て、就中東洋市場にあつては何と云つても花形たるを失はない。



先づこれ等の四社によつて大體世界に於ける人絹會社を色別なし得ると思ふ。尤も何系にも屬せない例へば帝人の如き独自の地歩を守つて能く世界第一流の人絹會社と肩を並べつゝあるものもある。或は又ブリタイツシユセラニーズ社の如きがそれである。一九一八年以來終始一貫アセテート絹の製造に従事しアメリカ、加奈陀等の子會社と共に、全く獨立のグループを形作つて居る。大系統に屬するものゝ内主なるものを左に列記して見れば、

(一)コートルツ系

コートルツ社 (英)

ウイスコース社 (米)

スケナンドア・レーヨン社 (英)

ヌエラ・アート・シルク社 (英)

ウイスコース・スウイス社 (瑞西)

コートルツ社 (西班牙)

カーレー社 (佛)

ストラスボルグ社 (佛)

(二)グランツストフ系

グランツストフ社 (獨)

アメリカン・グランツストフ社 (米)

アメリカン・シヤチロン社 (米)

シヤチロン社 (伊)

デユ・ボン・レーヨン社 (米)

アメリカン・ベムベルグ社 (米)

ベムベルグ社 (獨)

フアルペンインダストリー社 (獨)

グランツストフ・コートルド社 (獨)

旭絹織 (日)

日本ベムベルグ社 (日)

(三)スニア・ウイスコサ系

スニア・ウイスコサ社 (伊)

ヴァレド社 (伊)

インダストリアル・レーヨン社 (米)

ボル・ウイスコ社 (獨)



## (四)エンカ系

エンカ社—ゼネラル・レヨン合同會社 (和蘭)

ブリテイイツシユ・エンカ社 (英)

アメリカン・エンカ社 (米)

チユービーツ社 (白佛伊米)

ブレダ社 (和蘭)

右表に就て極く大體の輪廓を知り得らるゝと思ふが、この内(一)、(二)、(三)の系統を代表するコートルツ社、グランツストフ社、スニア社の三社間には既に相當密接なる協定が存在して居り、殊にスニアの資本には、コートルツ並グランツストフの資本が尠からず入込んで居る位であり、且つコートルツ、グランツストフ間にあつても既にある種の協定が存在して居る事は事實であるから、極く大まかな觀察に従へば人絹界には世界的にある一つの大きなカルテルが存在するに云ひ得るかも知れない。然し實際はなか／＼そんなものではない。それは既に周知の通り一九二八年末の人絹界パニツクに際して各社間の亂雜な歩調に依つて見るも明らかである。

然かもこのパニツクを一轉機として、従來の連結を一層鞏固にする必要を痛切

に感じて來た。それは嘗に國內に於ける諸會社の結合を、販路の上にも亦販賣價格の上にも、もつとさしつかかりしたものに仕様と云ふ以外に、國內の協定もこの際眞に必要な可からざるものであるのは勿論であるが、歐洲に於けるが如く國際的事情の比較的錯綜せるものにあつては、更に國際的カルテルの必要が眞剣に各社の間に考究せらるゝ様になつたのである。

(一) 先づ伊太利國內に於ける二大會社スニア・ツイスコサ社とシャチャロン社其他國內有力會社の協定成立に依つて、伊太利人絹共同販賣機關の設立を見た事。

(二) 獨逸國內に於けるグランツストフ社とI.G.ファルベンインダストリ社染料トラスト) 間に協調成立して、獨逸國內販賣高割當協定の成立せる事。

(三) 更に一九二九年の人絹界に於ける最もセンセイショナルなる事件として、獨逸のグランツストフと和蘭のエンカとの間に利益共同契約成立して、一新會社の設立を見、茲に歐洲に於ける國際的カルテルの上に一時期を劃せる事。

(四) 尙最近著しく賣出したアセテート絹製造會社間に市價に關する提携が具體化されつゝある事。



これ等は一九二九年中に於て國內並に國際的のカルテルとして外面に表れ、且つ比較的世人の注意を喚起したるものであるが、以下夫々に付て當時の外國新聞或は其他の報道を基礎として説明するであらう。

## (二) 伊太利人絹共同販賣機關の設立

抑々伊太利人絹界に於て國內並に國際的協調の傾向が漸次濃厚になつて來たのは、一九二五、六年の頃であるが、當時に於ては人絹會社の水平的結合よりも、寧ろ垂直的、即ち縦斷的結合が旺んに論ぜられ、これを實行に移した會社も尠くない。即ち、

- (A) 人絹製造會社として其の製造工程に於ける最も重要な藥品の供給工場と完全なる協調を必要とする。
- (B) 自己製品を直接消費し得る製織工場を所有するか、若しくは支配下に有する必要がある。
- (C) 莫大なる財源を有する有力なる大會社にして初めて人絹工業界に確固たる地歩を占め得るのであつて、この意味に於て小工場の合併が目論まれつゝある事。

これ等に依つて重要原料の廉價供給、製品の合理的消費、大量的生産によるコストの低下を期するのであつて、云ふ迄もなく經營の合理化である。然るに最近伊太利國內に醸成された協調の機運と云ふものは斯かる垂直的のものに非ずして所謂人絹製造會社間に於ける水平的結合に外ならないものである。つまり言葉を換へて言つて見れば、一九二八年末の人絹市價大崩落の後を享けて製造方面の合理化もさる事乍ら各社の協調によりて市價の回復を計らうと云ふのが眼目である。然かもこの事が常に伊國製品の重要市場である獨逸人絹界にも尠からぬ刺戟を與へ、延いて國際的カルテルへの可能性を暗示するものとなつたのである。元來伊太利國內には人絹會社として四つの大きなグループがある。即ち、

スニア・ヴィスコサ

シャチロン

ヴァレド・グループ (スニア系)

ゼネラレ・グループ

尙この外にエンカ並にベムベルグ等の工場があるが、生産額の點に於て未だ大勢を左右するに至らない。であるから右四グループが協調すれば、元來人絹の輸出國である伊太利へ年々輸入せらるゝ數量は問題とするに足らないから、同國內



の需給關係は完全にコントロールし得る譯である。

そこで伊太利人絹共同販賣機關の設立に就てあるが、この機關は一九二九年四月二十七日設立を見たものであつて、當時同國內の人絹會社間の競争激甚を極め、殊に獨逸生産會社との競争上、獨逸會社の財政状態が比較的鞏固にして、且つ技術の點より見るも到底之に打勝つ事能はずと認めたる爲め、國內同業者團結の機運漸く熟し、共存共營の目的を以て設立せられたものである。尤もこの機關は、伊國內に於ける各社販賣高の割合を協定して之を嚴守せしめんとするものであつて、外國市場に對して輸出せられるものに付ては制限を附して居らないから、外國市場に對しては今のところ直接の影響は認められない。但しこれに依つて獨逸國內に於ける協定を促進せる事は後述せる通りであつて、延いては國際的カルテルへの機運を促せる事は見逃し得ない。左に伊太利人絹共同販賣機關の内容を掲げやう。

一、名稱 同機關は本名を Soc. anon. Produttori Italiana Viscosa と稱し通稱を S. A. P. I. V. と稱す。

一九二九年四月廿七日伊國人絹の國內競争極度に達したるため之を避け共存共營の目的にて設立せられたるものなり。目下ミラン Banco Commercial

Italiana の建物内に事務所あり。

一、資本金 壹百萬リラ

出資會社	スニア一派 (ツアレド社を含む)	五十萬リラ
シヤチロン		廿五萬リラ
ゼネラレグループ		廿五萬リラ

株式は記名式にて他の株主の同意なしに譲渡を許さず。

一、本機關の繼續期間

此機關は試験的の企畫故先づ繼續年限を五ヶ年とし一九三四年四月卅日迄繼續するものと定む。

一、役員の選任

一九三〇年四月卅日迄は先づゼネラレ・ヴィスコサ社の Dr. Moris Francesco Oddasso 社長となり、第二年度はスニアの専務、第三年度はシヤチロンの専務、第四年度はツアレドの専務と云ふ順に選任せられ、此外に業務擔當委員なるものを擧げ、夫れに委員長を設け事務を擔當せしむ。

一、設立の目的

設立第一の目的は差當り國內販賣値段を協定し之を嚴守せしむる事。



## 一、各社の販賣高割當

スニア (ツアレドを含む) 五割  
 シヤチロン 二割五分  
 ゼネラレグループ 二割五分

## 一、各社製品の無差別

各社の製品は全部 S.A.P.I.V. の製品として販賣され、A、B等等級はあれども各社間の製品の優劣は絶対に置かず、協定値段は一様に各社の製品に適用せらる。

## 一、機關の職務

協定規約を嚴守せしむる方法として

## A 契約の通知

監督は嚴格なれど同時に此機關の手續を除くため、需要家よりの注文は従來通り各社直接之を受け、其契約書を各社に指示し不絶各社をして自己の割當を越えざる様販賣を調節することに努めしむる事。

而して一ケ年の終りに若し一社が其割合を超過して賣りたる時は、其の超過部分に對し一キロ十リラの割合にて罰金を此機關に支拂ふ事。

## B インボイスの送附

各社は又製品を發送したるときは其インボイスを全部此機關に送附し、此機關は直接需要家より代金取立の任に當る。此際若し得意先にして二回支拂を完全に行はざる者あるときは、用捨なく取引を中止せしむる事。

## C 品質

引渡其他に付需要家との間に苦情起りたる時は、此機關は其交渉の任に當る事。

要之此の機關の仕事は左の三點に歸す。

## A 契約高表の作成

## B 代金の取立

## C クレームに對する交渉

## 一、獎勵金 (割戻制)

需要家にして一ケ月二千キロ買ひたるとき二%、二千キロ以上は漸増して八%まで上る獎勵金を受く。(其漸増の割合不明)

但し需要家は獎勵金を受けんとする月には、此協定に屬する以外の會社 (即ち Outsider) より一切買ふことを禁ぜられ若し之を敢てしたることを發見し



たるときは獎勵金を支拂はずと規定す。

#### 一、協定の範圍

國內販賣のみに限り輸出は何等拘束を受けず、又ヴィスココース糸に限りアセテート其他の糸は此限りに非ず。

機關の概容は大體右の通りであるが、其の運用は今迄のところ比較的順調らしく、結果は頗る良好なりと謂はれて居る。即ち市價は漸く安定し、一九二九年春頃の最低値段一五〇B一キロ當り廿一リラは下期に至つて廿五リラまで昂騰し、約二割方の値上りを見せた。又各社間の關係も頗る圓滿、各々規約を嚴守して之を破るものなく、之が爲め、協定加盟外の有力會社 *Ialo Olandese Enka* 其他の小會社は早晚之に参加しなければならぬ様な情勢になつて來た。

尙最近の報道に依れば、右協定は更に一步を進められ、スニア、シヤチロン兩社間に從來の難点であつた輸出市場問題に付て一致点が見出され、主要輸出市場に於て無益な競争を排し、相互の利益を確保せんとするに至つた。

#### (二) 獨逸國內販賣高割當協定

獨逸國內に於ても從來グランツストフ、I.G.、フアルペンインダストリー兩社間

に協定が存在して居つたけれども、有名無實にして行はれなかつた。其の爲め何等かの國內會社の協調は各社の間に渴望せられて居つた處であつて、伊太利に於ける人絹共同販賣機關設立を見るや、グランツストフ並にI.G.等より委員を派して、同機關の内容及運用の有様を親しく調査し、行詰れる獨逸國內に於ても此の機關を採用せんことを計畫した由であるが、何と云つても伊太利と獨逸では事情を異にして居る爲め、早急には實現を見るに至らなかつた。即ち伊太利に於ては、スニア、シヤチロン、ヴァレド、ゼネラレの四社に依つて同國生産高の八五%を占め、四社が結合すれば始んど完全に國內の需給をコントロールし得るに反し、獨逸に於ける最も有力なるグランツストフ及I.G.の生産高は國內の約六〇%を占むるに過ぎず、且つ年々二千萬封度内外の輸入があり、國內の販賣協定を鞏固なものにする爲めには、勢ひ之等輸入先の諸會社をも之に引入れなければならぬ難關があり、要するに前記二社のみの協定を以てしては、到底獨逸國內の協定を完成せしめ得ざるの憾みがある。

そこでグランツストフの國外への活動となり、伊太利方面に於てはシヤチロンとの協定を策し、和蘭方面に於てはエンカとの合同を目論んで、後者は終に成功して別項記述の通り、ゼネラル・レーヨン合同會社の成立を見た譯である。こゝに至



つてIGこの協調は急速に發展して來た。即ち一九二九年十月下旬兩社間に假協定の調印が了せらるゝ運びとなつたのである。

この協定の範圍は、ヴィコス系中에서도普通品に限定せられマルチ・フィラメント系(多織系)或はダル・ラスター系(艶消系)其他ベムベルグ系(銅安系)セルタ系(中空系)ヴィストラ(人造羊毛)の如き比較的採算のいゝものは含まれない。

然し乍らこのカルテルも現在迄外部に現れたところを以つて見れば、未だ二社間に協定が成立したと云ふ程度に止り、それ以上具体的に第一生産割當、第二價格協定、第三實行の時日等に付ては未だ聞知し得ない。けれども秘密裡に交渉は進められつゝあるものと思はれる。兎に角今回兩社協定第一の目的は無論國內に於ける市價安定にあるは云ふ迄も無いが、更に進んで將來獨逸が人絹工業に於て大いに伸びんとする下準備の一つであつて、獨逸の如き比較的關稅低き國にあつては絶えず伊太利、和蘭、佛蘭西等の人絹生産國よりのダムピングの脅威を受け如何に國內の協定を鞏固にするも結局無駄であるから、之を眞に權威ある協定たらしめんには進んで國外の諸會社とも提携を策する必要がある。この爲めには前述の通り既に世界に於ける人絹界の三羽鳥、コートルツ、グランツストフ、スニア三社間にある程度の提携が成つて居り、又最近に至つてはグランツストフとエンカ

この合同成立せる爲め、これ等の機關を通じて各個に提携の手を延ばさんとしつゝある魂膽は最早見逃し得ない所である。即ち其の目指す處は汎ヨーロッパカルテルである。然し乍ら一面カルテル化の齎らす結果が各方面に一樣に樂觀されて居る譯ではない。例へば二流以下の群小諸會社にありては、現在の市價では安定しても之に依つて満足し得るものはないであらう。一流會社中にあつては、現在の市價を以つてしては原價を割るものありと謂はれて居るのであるから、二流以下の諸會社の泣言はもつとも千萬な話である。この見地からして生産割當制を取り極めて、それに依つて市價安定のみならず否引上を期待して居る向もある。

けれども亦一面これを消費者方面から見ると、事情は一層複雑になつて來る。織物關係方面は近年實勢余り香しくなかつたが、原糸崩落の爲め賣上高の増加によつてやつと呼吸をついて居た譯であるが、萬一原糸市價の反撥を見る様な事となれば、織物關係筋は再び困難な立場に陥らねばならないであらう。殊に最近綿織物方面が人絹への對抗上種々意匠を凝らし宣傳されつゝある際、この懸念は一層深められて居る。



#### (四) 獨逸グランツストフ及び和蘭エンカ兩社の 合同成立

獨逸人絹界の情勢が頗る危機に瀕して、大小人絹會社が協定に依つてこの急場を切り抜け様として居る事は既に前述せる通りである。然かも國內の協定を進める事に就ては、同時に獨逸市場と最も關係の深い伊太利並に和蘭の有力會社と提携する必要がある。今回のグランツストフ・エンカの合同は其の後者を最も忠實に行つた現れに外ならない。然かもこの合同が注目せらるゝ所以は、兩社の持つ背景が大きいからである。即ちグランツストフは周知の通りグランツストフ・ベムベルグ・シャクロン・デュボン系を代表するグランツストフ系の總元締であり、エンカとても亦エンカ・チュービーツ・プレダ系を代表する一方の旗頭である。だからこの意味に於てこの兩者の合同はそれが通り一遍の協定でないだけに、人絹界にとつては重大なる意義を有するものである事は論を俟たない。

抑々兩社の合同は「利益共同契約」とても稱すべきもので、一九二九年五月二十八日の和蘭エンカ社の株主總會に於て獨逸市場統制の爲めグランツストフとの間に交渉中の合同問題は兩社の利益が相一致する事判明せる旨發表せられ、茲

に於て右交渉は急速に結末を告げたもので其の目的とする處は、

- (一) 技術の交換、或は經濟的援助に依つて、互に其の能力を増進し
- (二) 且つ兩社間の競争を緩和し
- (三) 其の結果として人絹市場の安定を計ること云ふにある。

兩社は最初この目的を貫徹する爲めに、完全な合同形式をこる筈であつたが、兩社は各々異なる法律上の監督を受けて居るので、完全なる一体となる事は不可能である爲め、自發的に株式を交換する事に依つて、協調の目的を達する事となつた譯である。然して *Algemeene Kunstzijde Unie* (畧稱 A.K.U. 即ちゼネラル・レーヨン合同會社) なる新持株會社が和蘭に設立せられて法律上の根據となり、且つ聯合團體の中心となることゝなつた。之は全く經濟的、法律的諸方面より慎重に考究せられた結果であつて、獨逸租税の荷重なる事も右新會社が和蘭に置かれた主なる原因と見る事が出来る。左に聯合通信の報道に依つて、其の内容を検討して見やう。

(A) 提携の内容。一言で云へば實質的の合同である。即ち生産並に販賣上に於て兩社の利害を共通にすると同時に兩社の利益金をプールする。

(B) 合同の形式。表面上合同せないのは、和蘭國內法上都合が悪い爲めて、新に



A.K.U. を和蘭に設立して、エンカ社を買収して終ふと共に、此の新會社は獨逸のグランツストフ社の持株會社となる。

(C) 新合同會社。即ちゼネラル・レィオン合同會社は資本金二億三千四萬八千ギルダ―(邦貨約一億九千萬圓)であつて、この内和蘭側の出資は四千六百四萬八千ギルダ―で拂込を終了したこの事である。株券は十百、五百ギルダ―の三種である。

(D) 株式交換。グランツストフ側では出来るだけ多數の株式を、出来れば全部を新合同會社の株と交換する肚らしい。而して交換率は獨逸側が有利で五對四の割合である。

即ち、グランツストフ株二千七百萬マルクを提供すれば新合同會社株二千ギルダ―を得られる。尙新會社の株式は一九二九年九月から既に伯林株式取引所に上場せられて居る筈である。

尙倫敦タイムスの報道に依れば、右新設合同會社へ對してコートルツ社は代表として重役一名を送りコートルツ社、グランツストフ社間の年來の希望たる圓滿なる關係を具体化せんとして居る。更に茲に記述して置かなければならない事はエンカ系とブレダ系の關係が從來よりも一層具体的になりつゝある事である。

既に前述の通り獨逸に於ては有力なる提携が目下完成されつゝある。今又茲にエンカとブレダの和蘭に於ける最も有力なる二社の提携が進行しつゝある。更に又この二國の總元縮たるグランツストフとエンカの合同が完全に成立を告げ英國のコートルツとの關係も一層密ならんとするものがある際、誰か汎ヨーロッパの一大國際的カルテルの成立を否定し得るであらうか。

殊に右グ・エ兩社合同の影響は早くも米國に齎らされて居る。即ちエンカ系のチユーバイツ社とグランツストフ系と目せらるゝシャチロン社の間に米國內に於てアセーテト法に依る新共營工場の設立が發表せられたが、本年一月愈々合併した。斯様にグ・エ兩社の提携が茲に一つの効果として現れるに至つた事は、更に米國內に於ける提携の機運を刺戟して、小會社間の合併問題は昨今ポツ／＼巷間の風評に上りつゝあるこの事である。もつとも、目下何れも具體的な話にはなつて居らないが、銀行團は小會社の合併に力を入れて居る由である。

### (五) アセテート絹製造會社の提携機運

これは前述の提携が總てヰイスコース普通品を目標として居るに反して、最近遽かに勃興しつゝあるアセテート絹の國際的提携を計らうと云ふのである。



元來アセテート絹の生産高は從來極めて少量であつたが近來漸くアセテート絹本来の特質が需要家の間に認められた事從來同糸の缺點とせられて居つた染色に對する困難が除かれた事に依つて古くからアセテート絹専門のブリテイッシュ・セラニーズを始めとし有數の大會社が續々アセテート絹の兼營を開始せる爲め其の産額は急激に増加して、一九二九年度の如きは世界に於ける各種人絹總産額大約四億二千萬封度の内ヴィスコース糸八割余、アセテート糸一割銅安糸五分、硝化綿糸四分と云ふ割合になつて來た。

然かもアセテート絹の市價はヴィスコース糸同様一九二八年末のパンツクの影響を受け、加ふるに新製品なる爲めに其の採算は頗る困難を加へて來た。アセテート絹糸の國際的一大聯盟はこの状態に一の刺戟を與ふべく價格協定を目的として生れたものである。但し其の内容に就ては現在迄のところ全然不明である。

加盟會社は、コートルツ社(英)、スニア社(伊)、グランツストフ社(獨)、チュービーヅ社(日)、エンカ社(和)、シャチロン社(伊)等總て一流處を網羅して居る。

## 品質主義への新傾向とステープル。

### ファイバーの擡頭

#### (一) 大量生産より品質主義へ

一八九一年硝化綿法人絹の發明者である佛蘭西のシャルドンネ伯が佛國ブザンソンに日産百封度の工場を起して、漸やく人絹の工業的製造の端緒を開いたのであるが、爾來一工場の生産單位は漸次擴大され、人絹工業としてその可能なる最小限度の生産單位は日産一千封度と謂はれて居つたが、其の後人絹事業の異常なる進歩と共に三千乃至五千封度の生産能力を有するに非ざれば、能く一工場單位としての能率を發揮し得ざるに至つた。然るに其後の人絹界の情勢は尙一層大量生産へ大量生産へと嚮つて行つたのは世人の知るところである。

即ち一工場の日産一萬封度を越ゆるものは現在決して其の數を尠しとせない。大量生産に依るより一層の原價の低下、斯くせなければ人絹界の落伍者を覺悟せなければならなかつたのである。世は擧げて大量生産時代を出現した譯である。



然るに近年に於ける人絹界の趨向は、大量生産主義は最早一通り其の目的を達して、この處一段落を告げたかたちである。

然して新品質主義への傾向が鬱然として起つて來た。例へばアセテート絹の急激なる勃興、銅安糸の復活、更に最も注目すべきはヴィスコース法による種々かたちを變へた新製品の出現であらう。ヴィスコース法の改良法とも謂ふべきリエンフェルド・プロセス並にブランドウツド・プロセス、殊に近年に於ける最も顯著なる現象はヴィスコース法を始め、各種の艶消糸、或はマルチ・フィラメント糸が潮の押し寄せるが如き勢ひで勃興しつゝある事實であらう。この事實は一面人絹の發達史に一時期を劃せるもので正に人絹界の一進歩を物語るものである。

尙又一面から之を見れば人絹の需要が漸次方向を轉換しつゝあるものとも見られる。然かもこの傾向は單なる一國一地方に於ける現象ではなく、最早世界的の趨勢と云はなければならぬ。今之等各種の新製品に就て簡単に説明を加へやう。

### (二) アセテート糸の勃興

アセテート糸の製造は茲數年來最も急激なる發達を示した。云ふ迄も無くア

セテート糸の製造は、一九一八年以來ブリテイッシュ・セラニーズ社に依つてせられて居り、其の製造の歴史はヴィスコース糸には及ばないけれども既に相當古いものであるが、製造原價の高價なる事、需要伴はざる爲め、豫期の成績を擧げ得ず、永い間苦闘を續けて居つたが、漸やく時機到來して生産原價の低下と共に賣値を引下げ、需要も亦これに應じて急速に勃興を見るに至つた。

参考の爲めに米國テクスタイル・ワールド誌調査による一九二八、九兩年度の各種人絹の生産高割合を掲げる。

	一九二八年	一九二九年
ヴィスコース糸	八五%	八二%
アセテート糸	七%	九%
銅安糸	四%	五%
硝化綿糸	四%	四%
計	一〇〇%	一〇〇%

右表の通りアセテート糸の生産高は、之をヴィスコース糸に比すれば未だ微々たるものであるが、從來殆んど問題とするに足らなかつたアセテート糸が、着々其の地歩をヴィスコース糸の間に占めつゝあるは注目に値する。



抑々アセテート糸が最も急激な発展をしたのは一九二八年度であるが、それ以前に於ても既にブリテイッシュ・セラニーズ社があり、更にコートルツ社もヴィスコス系製造の傍らアセテート糸の製造に従事して居り、又同じく英國のアベックス、加奈陀のカナデアン・セラニーズ社、白耳義及佛蘭西のチュービーヅ社があり、この外米國に於てはブリテイッシュ・セラニーズ社の姉妹會社たるアメリカン・セラニーズ社があり、更に又ヴィスコス系工場の兼營としては、コートルツの子會社として米國第一の人絹會社たるアメリカン・ヴィスコス會社が、母會社たるコートルツ社のアセテート糸の好績に鑑み製造を開始せるあり、又デュボン・ラストロン等も最近これに従事しつゝあるが、英國に於けるアセテート糸の進歩は米國のそれにも増して目覺しいものであつた。即ち英國に於ては一九二八年度に於て三つのアセテート糸専門の新會社が相次いで設立せられた。

その一はインターナショナル人絹會社 (International Artificial Silk Co., Ltd.) である。同會社は一九二八年初頭ロンドンに於て資本金六十六萬磅を以て設立せられたものであるが、別に新に工場を設けず、佛國の Aubenton 及び Clairix の二ヶ所に工場を有する Soie de Compeigne 社を買收して、其の内後者工場を高級アセテート糸専門の製造工場として充てゝ居る。

次はブリテイッシュ・アセテート・シルク會社 (British Acetate Silk Corporation, Ltd.) である。同社は同じく英國のブルマー・レーヨン會社の別働隊として資本金二百七十萬磅を以て設立せられたもので、現在ブルマー社ストウマーケット工場に於て採用しつゝあるアセテート糸の製造方法を繼承するものである。

第三にセルローズ・アセテート・シルク會社 (Cellulose Acetate Silk Co., Ltd.) がある。英國不燃性フィルム會社の傍系として、一九二八年初めに設立を見たものである。公稱資本金一百二十五萬磅。英國のランカスターの某工場を買收して醋酸纖維素と同時にアセテート糸の製造に従事せるものである。

之等は英國に於けるアセテート糸専門の新設會社であるが、大陸に於ても亦異常なる刺戟をうけてヴィスコス工場のアセテート糸兼營が相次いで現はれるに至つた。殊に佛蘭西と瑞西に於ては一九二九年中に各一つの新會社設立を見るに至つた。

即ち佛國の Lefranc-Kohorn Co. は從來の製法とは全然別箇の醋酸纖維素法 (Butyrocellulose) に依つて五千萬フランの資本金の下に巴里の Lefranc 特許會社及びケムニツツの有名なる人絹機械會社、例のオスカ・コーホーン社との兩社の提携に依つて新設せられたものである。又瑞西の Societe Rhodiaseta は資本金一百萬瑞西フ



ランを以て Rhodiaseta 式アセテート法の下に新設せられたものである。同法による人絹會社は佛蘭西及獨逸の同名會社を始めとし、米國のデュボン社も同式によりてアセテート糸を生産しつゝあり、何れも皆好成績を擧げて居るが、主として瑞西國內の需要に應ぜんが爲め設立せられたものである。

斯くの如くアセテート糸の生産は急速に増加する事となつたのであるが、之等の諸會社中相當の成績を擧げつゝあるものは、世界に於けるアセテート人絹界の最大最古なるものブリテイッシュ・セラニーズ社を除いては、海に稀れてあつて、多くは財政的の難關に沈淪して居る。もつとも難關に遭遇して居るのは獨りアセテート糸ばかりではない。一九二八年末から一九二九年上期へかけてのバニツク以來歐米を通じて新設群小諸會社中否一流の諸會社中にあつても、大なり小なり痛手を蒙らなかつたものはないと云つてよい位であるから、特にアセテート糸の勃興が全然失敗に終つたと云ふのではない。そればかりではない。彼のバニツクに依つてアセテート糸も亦其の市價の上に著しい影響をうけ、既に記述せる通り格安となつた爲め、これが延いて需要を促進する事となりアセテート糸も漸く一般消費市場に於てポピュラーとなつて來た事は争はれない。けれどもこれが爲めにアセテート糸の生産原價が市價低落と同じ様な振合に

於て引下げられたものであると云ふ事が出来るであらうか。勿論、先進諸會社の努力に依つてヴィスココース糸同様、アセテート糸の原價が漸次低下しつゝあるのは事實であらうが、未だくゞヴィスココース糸とは大分距離がある様に思はれる。元來アセテート糸の原價が比較的高い所以は、主として

(一) 主要原料たる醋酸が今尙高價なる事

(二) 製造工程が複雑なる事

等に依るものであらう。この原因は茲當分は早急には除かれさうにもないから、アセテート糸の原價がヴィスココース糸と同一標準に立つ等とは考へられない。殊に本邦の如く主要原料たる醋酸の供給が不充分なる國にあつてはアセテート糸工業は寧ろ不可能事に屬すると云つても過言ではない。今各國に於けるアセテート糸専門の製造會社並にヴィスココース糸其他の製造に従事して居つて、アセテート糸を兼營するものゝ内主なるものを列記すれば左表の通りである。

英吉利

ブリテイッシュ・セラニーズ社

アライアンス人絹會社

インターナショナル人絹會社 (工場佛國)



セルローズ・アセテート・シルク會社  
 プリテイツシユ・アセテート・シルク會社  
 コートルズ社  
 アベツクス社  
 ネルソン社

米 國

アメリカン・セラニーズ社  
 ヴイスコース社  
 デュボン社  
 アメリカン・シヤチロン社  
 ラストロン社

獨 逸

アセタ社  
 獨逸アセテート社

伊 太 利

シヤチロン社

佛 蘭 西

ローデアセタ・イタリヤナ社  
 チュービーズ社  
 ローデアセタ社

和 蘭

エンカ社

加 奈 陀

カナデイアン・セラニーズ社

(二) 銅アムモニア糸の復活

銅安絹糸は硝化綿法に次で發達したものであるが、其後ヴィスコース法の興隆と共に、漸次没落の悲運にあつたが、獨り獨逸のベムベルグ會社並に其の姉妹會社の努力に依つて、製法に改良が加へられ、天絹に劣らぬ優良なる製品を販出するに及んで、漸く茲に復活の機運が到來した。この意味に於て今日の銅安糸の興隆は一にベムベルグ會社の永年の研究と經驗に俟つ所極めて多いものがある。殊に



同會社エルゼルサー博士の研究にかゝるストレッチスピニング(緊張紡糸法)の實施に依つて銅安糸の品質に一時期を劃せる事は、銅安糸の發達史中特筆大書すべき一事であらう。

元來銅安糸は、アドラー絹糸(Adlerseide)とも稱へられて居るが、これはベムベルグ社の同糸トレイド・ネイムが一般化せられたものであつて、恰も近來スニア・ウイ・スコサ會社の人造羊毛スニア・ファイルがステール・ブル・ファイバーの代名詞として用ひられるのと同様である。

然してアドラー絹糸の最も顯著なる特徴は

(一) 緊張紡糸法に依つて極細糸の紡糸に適し、従つて其の光澤、手觸り等天然絹糸に近似せる事。

(二) 耐水性比較的強く、染色性にも富める事。

等であつて、その爲め莫大小使ひとしては最も適當して居り、且つ洗濯に對する耐久力の如きは極めて良好である。

殊に最近では十五デニールにして單糸二十五本のアドラー絹糸さへ市場に出現し、天絹對人絹の將來に對しても一つの大きな問題を投げかけて來た觀がある。即ち右新製品一單糸の織度は〇・六デニールとなる譯であるが、普通生糸の織度三・

五デニールに比して遙かに勝つて居る。同糸は従來のベムベルグ絹糸の製法を基礎として、これに細さと柔軟性を附與せるものであつて、其の手觸り、光澤の穩和なる点に於て一般紡織界の一驚異とされて居る。今左にアメリカン・ベムベルグ製品の各デニールの單糸數と定價を掲げて參考に供する。

デニール	單糸數	定價
一五	二五	四弗一五
二五	二五	三・六五
三〇	二五	三・四〇
四〇	三〇	三・一五
五二	三〇	三・〇〇

右表の通り銅安糸の賣値は、生産原價の關係から尙比較的高價なるを免れない。この意味に於て銅安糸の需要は、茲當分は單に高級品として一部の需要を充たすに過ぎないであらう。

尙銅安糸の主なる製造會社としては、獨逸のベムベルグ本社を初めとし、其の姉妹會社として英國にはブリテイッシュ・ベムベルグ、米國にはアメリカン・ベムベルグ、伊太利にはイタリアン・ベムベルグ社がある。尙この外に英國には主なるもの



としてブリシルカ社、銅アムモニア絹糸紡糸會社等があり、其他獨、佛、白諸國に各々數個の同糸製造會社を有して居る。

#### (四) リリエンフェルド糸の發明

リリエンフェルドプロセスはヴィスココース法の一種である。元來同糸に關する特許は奧國のリリエンフェルド博士の發明にかゝるものであるが、同法の特徴として報道せられて居るものに從へば、

- (一) アルカリ纖維素の熟成が不要なる事
- (二) 苛性ソーダ纖維素、二硫化炭素を一時に混合し、而も頗る低温に於て、一時にヴィスココースと爲し得る事

- (三) 從來の煩瑣な温度調節を必要とせざる事

- (四) 紡糸浴には五十五度以上の強硫酸を使用する事

現在この特許に依つて製造に従事せるものを擧ぐれば、獨逸のグランツストフ、英國のコートルツ並にヌエラ人絹會社に於て極めて少量生産せられつゝあるものを除いて他に見當らない。然し乍ら其製品々質が、濕潤時に於ても頗る高い強度を有して一種特別の長所をもつて居る事は、同糸が縫糸として既に市場に出現

せる一事を以て見るも立證し得る譯である。即ち英國に於ては *Suncord* なる商標を附して又米國に於ては *Texto* なる商標に依つて市場に賣り出された。

勿論同糸の縫糸としての將來に就ては、尙幾多改良を要すべき点が存するであらうが、人造絹糸の用途が漸次擴大されつゝある一事は注目し得る。

同糸の生産原價は今尙高い。寧ろアセテート糸のそれよりも高いと云はれて居る。この事が現在同糸の發達に對して一の障害となつて居る模様である。肝心のコートルツ社さへ過般の總會に於てリリエンフェルド絹糸生産の擴張は、今後漸進主義による旨發表して居る程であるから、従つてコストも茲當分はこれ以上著しい低下は望み難い。又同様需要の増加も期待し得ない現状にある。更にコ社との共同契約に依つて從來リリエンフェルド糸の製造に従事しつゝあるヌエラ社にあつても、*Tenasco* なる商標に依つて賣り出しつゝあるが、何れにしても極く小規模の生産であるから未だ需要の中心に喰ひ入つて行くだけの力はない。

#### (五) ブランドウッド・プロセスの出現

アセテート糸の勃興に次で、幾多の特徴を有するリリエンフェルド法が完成し、人絹界は今や新製品續出の有様であるが、更に近時歐米に於ける製品品質の向上、



並に原價低減の研究は益々眞剣味を加ふるに至り、茲に英國ランカシャの研究者に依つてブランドウッド法(Brandwood Continuous Process)が發表せられ、更に同法によつて、資本金壹百萬磅を以てアトラス人絹會社が(Atlas Artificial Silk Process, Ltd.)設立せられ、同法の特許權所持者たるインターナショナル人絹會社より英國に於ける特許權を譲り受け、既に昨年より工業的の製造に従事しつつある。

然して現在の一週間の生産高は、一萬封度と云ふ小規模であるが、今後引續き擴張の豫定で、製品は百、百五十、三百デニールの三種である。

同法はツイスコース法を單純化せるものに外ならないのであるが、其の特徴として報道せられて居る處に就て見るに、

- (一) 製品々質が著しく向上する事。
- (二) 全生産高中A級品の割合が従來の五〇%より少くとも九〇%に増加する事。
- (三) 勞力費を五〇%以上低下せしめ得ると共に、工手人員は従來の三分の一にて足る事。
- (四) 製造に要する時間を五〇%方節約し得る事。
- (五) 水の消費量を少くとも五〇%方節約し得る事。

(六) 製造設備並に敷地面積を従來の方法よりも著しく節減し得る事。  
 尙これ等基本的特徴の外に、操作上細部に亘つて幾多の單純化を實行して居り、其の爲め勞力費の如きはこれを具体的に示せば左表の通り、従來のツイスコース法に比して著しく節約し得る勘定である。

例へば一週五萬封度乃至六萬封度のツイスコース法工場が従業員一千二百人を要するに對し、ブランドウッド法工場は僅かに五百人を要すれば足るのである。今其の内譯を示せば、

	普通ツイスコース法工場	ブランドウッド法工場
原料係	六〇人	四〇人
紡糸係	二〇〇	一〇〇
漂白係	一二〇	六〇
繰返係	一〇〇	無し
選別係	二四〇	無し
ワインディング係	三〇〇	二〇〇
荷造發送係	六〇	四〇
機械係	六〇	三〇



## 技師事務員

六〇

三〇

## 計

一二〇〇人

五〇〇人

ブランドウッド法の強味は何と云つても原價の安いと云ふ事にとゞめをさす。然し乍らアトラス社に於けるこの式は現在漸く試験期を脱したと云ふ程度に止り、前述せる諸種の特徴に就ても其等の報道がどの点まで信をおき得るや確然とせず、大工業的に完成を見るのは未だしの感が深い。

## (六) マルチ・フィラメント糸の進出

アセテート糸、銅安糸、更にヴィスコース法の改良法と各種の新製品が續出せる事は既に前述せる通りであるが、其等は、將來は知らず現在に於ては、何れも一部諸會社に於て生産せらるゝに止り、又其の需要も比較的限られたる範圍外には出ないものであるが、最近鬱然として勃興して來たヴィスコース法に依るマルチ・フィラメント糸に到つては正に人絹界の大勢を左右せんとするものであり、一エボックを劃するものである。この意味に於てマルチ・フィラメント糸の擡頭は、最近の人絹界にあつて最も注目に價するものである。

抑々同糸の擡頭は、單糸を細く且つ増加する事に依つて手觸りを柔軟ならしめ、

併せて光澤を穏和ならしめ様とするものであつて、その爲めには原料なり、又操作の方法なり、技術的に種々なる困難が伴ふけれども、全然別箇の製法に依るものではなく、例へばヴィスコース法ならヴィスコース法に依つて又銅安法ならば銅安法に依つて單に同一デニールにあつて單糸數を多くし、従つて單糸の織度を細くする事に依つて目的を達するのであるから、特に大なる機械の改造を要する譯ではなく、要するに技術の問題である。この点同糸の發達が特に大いに其の將來を期待せらるゝ所以でもある。

勿論艶消糸の擡頭は特に昨今起つた問題ではない。人絹の金屬性の光澤を緩和し様と云ふ試みは、既に早くからあつたのであるが、それらの試みは人絹製造後に於て艶を抹消したものであつて、其の織物を着用して居る間に艶が戻つて來ると云ふ様な種類のものであつた。例へば硫酸ソーダと塩化バリウムに依つて硫酸バリウムを生成せしめ、硫酸バリウムの沈澱を糸の表面に附着せしめて光澤を消すが如き方法である。

然るにマルチ・フィラメント糸はさうではない。從來一五〇デニールにあつて、二十四乃至二十五本單糸の織度約六デニールの單糸數を、三十六本單糸織度約四デニール)或は六十本單糸の織度二五デニール)とする事に依つて一層手觸りを柔



軟にし且つ光澤を和らげ様と云ふのである。

この種の糸は現在多くの人絹會社に依つて、特に從來の普通糸と區別して賣出されて居り、例へば帝人が最近賣出した「ダイヤフィル」の如きは一二〇デニールにあつて單糸數五十本(單糸の織度二・四デニール)を有し、手觸り、光澤、其他操作上の諸点に於て天絹に劣らない特徴を具備して居り、正に理想的のマルチ・フィラメント糸と稱せられて居る。(現在帝人にて製造せられて居るマルチ・フィラメント糸は、前記一二〇デニール並に一〇〇——單糸四二本、一五〇——單糸五〇本の三種である。)又コートルズ並に米國に於ける其の子會社であるアメリカン・ヴィスコース會社に依つて發賣せられて居る「デュレスコ」(Dulasco)及び「デュレンザ」(Dulenza)尙ほ社に於て發賣せられて居る「エスコート」(Escortio)「コート」(Courto)「デュエンザ」(Dulenza)の如きは何れもマルチ・フィラメント糸であつて、特に被覆力大きく光澤又穩和、靴下並に高級織物用として好評を博しつゝある。尙之等の單糸數は一五〇デニールにあつて三十六本、四十八本、六十本、七十二本等である。

尙最近英國のハーベンス社は「マイクロシル」(Microsil)と稱するヴィスコース極細物の製造に成功し、之を市場に販出して居るが、同糸は一五〇デニール單糸五十本(織度三デニール)六〇デニール單糸四十五本(織度一・三デニール)を有し、銅安糸たる

るペムベルグ糸に劣らない特質を有して居る。

右の通り最近人絹界に於ける最も著しい傾向は、同一デニールにあつて、數種類の單糸數を有する人絹が現はれ、各々其の特質に従つて異つた用途に需要せらるゝと云ふ具合になつて來た事である。今米國に於けるヴィスコース並デュボン兩社の一二五並一五〇デニール各種製品の單糸數を掲げて見る。

デニール ヴィスコース社

デュボン社

一八本	一五〇	二四本
三六本	三六本	三六本
五〇本	六〇本	六〇本

尙特殊品としてはこの外に中空人絹がある。紡糸工程中特別の裝置を施して纖維を管狀ならしめ或は凹狀にして單糸表面の凸凹を密にし、被覆力の増大をはかると共に、光澤を緩和仕様と云ふのである。この式の糸は既に早くから一部に行はれて居つたが、製造工程に於て多少の無理があり、毛羽も立ち易い爲め、其後大して發展した様な模様も見えない。現在この糸は英國のケミル會社、獨逸の獨逸セ



ルタ會社、佛國のガウヂー人絹會社、伊太利のスーパーテツセル會社、其の他の諸會社が共にヴィスコース法に依つて製造に従事して居るが、其の生産額は未だ極めて少量である。

### (七) ステープル・ファイバーの擡頭

ステープル・ファイバー(人造羊毛)の發達は、歐洲大戰に依つて一新時機を劃せるもので、特に大陸に於て、人造絹糸の發達が一時堰き止められたに反して、寧ろ必然的需要の結果として急激なる進歩を示すに至つた。

右の如くステープルの製造は、大戰に依つて長足の進歩をしたものであるが、既に獨逸に於ては大戰前現在ステープルの一種であるヴィストラの製造者として斯界に重きを爲して居る、コロン・ロットワイル會社に依つて製造せられて居つた。であるから新製品として數年來遽かに世論を喚起して居るステープルも、最早二十數年の淺からざる歴史を有する譯である。

ステープルに關する最初の特許は Mons. A. Pellain のそれ(佛國特許第四一〇七七六號)であるが、これは遂に工業化するに至らなかつた。

次は一九一〇年リヨンの Paul Girard の考案せる方法(佛國一九一〇年特許第四

三八一三一號、一九一二年英國特許第五三八六號)であつて、嘴先より紡出せられる纖維は、一旦ポピンに巻取られて、一定の長さ切斷せられるものである。この方法は非常な成功を收めて、現在尙其改良を加へられたものが一部の製造者に依つて踏襲せられて居る。

一九一一年には F. & G. Mitchell 商會の製法(英國特許第二九〇三〇號)が發表せられ、この方法は從來の人造絹糸を短く切斷して、そのみ或ひは他種纖維と混ぜて紡績するのである。

現在製造せられて居るステープルの原料は木材パルプとコットン・リントー兩様使用せられて居る。製造の原理は人造絹糸の場合と全く同じと云つてよい。只異なるところは紡糸液が嘴先から紡出せられて、愈々硫酸浴の中で凝固せられる、その凝固以下の工程である。

然し乍らそれは原理が同じだと云ふのであつて、原料の選擇にしても亦酸浴の調製、其他仕上等に特殊方法が必要である事は云ふ迄もない。

即ち人造絹糸の場合、無限の長さを有するものであるが、ステープルの場合は一寸から三寸位の短糸を爲して居るのである。それで斯かる短糸を作るにはどんな方法を探るか云ふと、厚木博士の「人造羊毛と人造綿毛」に依れば、其の大意は、



- (一) ボビンに巻き取つた糸、或はトツバム式にあつては、遠心分離ボックスでケイクとした糸を一旦認めごとつて然る後ある一定の長さにて切斷する。
- (二) 右の通りボビンに巻き取つたり、ケイクとしないで、最初から所要の短纖維として凝固せしめる。即ち凝固浴の流れに一定の速度を與へて置き、嘴先から紡出される糸が一定の長さになると流れの爲めに自然に切斷される様な仕掛にする。出來た短糸は濾過装置に依つて集められる。
- (三) 嘴先から凝固浴に紡出せられる紡糸液の流出を、一定の長さの短糸となる様に斷續的に調節せしめる仕掛とする。
- 斯くして得た纖維は脱硫、漂白、乾燥等の操作を経て、ステープル・ファイバーとなる譯である。

先づ右の三つの方法があるが、第一の方法は比較的簡單であり、且つ從來の人造絹糸製造の方法と最も相似点が多い。

元來人造羊毛にこつて、纖維の細いと云ふ事は最も重要な條件であつて、普通一單糸の織度は一デニール以下である。(人造絹糸の一單糸の織度は近來マルチ糸其他の新製品の續出に依つて極めてまちまちであるが、普通ツイスコース糸で凡そ六デニール、四デニール、二・五デニール、ずつと細いもので近頃は一・五デニール

位のものもある) 現在比較的織度の細いものとして市場に歡迎せられて居る獨逸のツイストラの如きは一單糸〇・七五デニールに過ぎない。纖維は細ければ細い程製織後の結果は良好である。光澤も亦手觸りも一に織度の如何に原因するものであつて、この点はステープルの品質決定の重要條件である。現在製造せられて居るステープルの織度は、人絹同様頗る多様であるが、先づ細いのは〇・五デニールから太いものになると十二デニールに及んで居る。

マンチエスターの一専門技師がステープル・ファイバーの將來に對する注文として、テクスタイル・ワールド誌に述べて居る處に依れば

- (一) ステープルの織度は將來共出來る丈細くする必要がある。
- (二) 尙この細さとそれに對する最大限度の強さを保持しなければならぬ。
- と言及して居る。

生産原價は人造絹糸に比して頗る廉い。(但しこの場合紡績機にかける迄の原價である。一寸乃至三寸位の極く細い短糸を紡機にかけて糸にして初めて織布原料となるのである。) その主なる理由は、

- (一) 後に紡績と云ふ工程を控えてゐる爲め、人絹糸の如く纖維の均整とか、ケバとか云ふ問題に就て絶對的の標準を必要とせない事



(二) 又繰返し、然糸等の工程を省き得る事。等である。

従来行はれて居るステープルは大部分ツイスコース法に屬するものであるが、銅アムモニア硝化綿更にアセテートのステープルも近時製造を見る様になつて来た。殊に銅アムモニア人造羊毛は成績頗る良好にして、これを普通羊毛の紡績にかけて紡績して見るに、梳毛から紡績に至る工程中、僅かに一%足らずの屑を出すに過ぎない。且つ製織に際しても何等の困難を見ないのみならず、ツイスコース式に比して一層手觸りのよき事と、保温の目的に適して居る事とを特徴として居る。尙最近の報道に依れば英國のブリテイッシュ・セラニーズ社に於ても羊毛紡績に適する様な比較的長いアセテート人造羊毛の製造を開始すべき事を發表して居る。もつとも同法による人造羊毛は之が最初ではなく、既に佛國ローヂアセタ社に依つて盛んに製造せられた事がある。ランカシャー地方の評判に依れば、同品はツイスコース式に比して高價の嫌ひはあるが、綿糸との異色染めに依つて面白い効果が得られるこの事である。

ステープル・ファイバーが紡績並に製織上最も充分な効果を擧げ得るのは恐らく綿との混交であらう。然かもステープルの最も強味とする處は、普通の綿糸紡

績機にかけて些の支障無く紡績し得る事、今日ではある意味に於てステープルは綿と同様に取扱はれて居り、走錘精紡機、輪具精紡機何れにも適用されて居る。勿論ステープルの紡績に當つて普通の紡機に部分的の改良を施す時は、一層優良なる結果を齎す事となる譯であるが、これとても聊かの改良に過ぎないのであつて、在來の紡機を使用し得る事に變りはない。

右の如く綿紡機を使用する方法は、ランカシャーでは夙に行はれて居る處であつて、最近はその依つて極めて完全なる糸を製出して居る。

- 今ステープル紡績に當つてその特徴を擧げて見るに、
- (一) ステープルは前述せる通り、其の纖維が普通一デニールに充たざる程度の織細なものであるから、綿糸紡績の打綿に當る工程を要しない。
  - (二) 既に精製せられた右の如き纖維であるから梳毛の必要はあるが、刷く手数を要しない。

(三) 且つ全工程を通じて屑糸の出來高は極めて僅少である。

尙ステープルは其れ自身でも紡績し得るのは勿論であるが、綿との混紡の割合は、普通ランカシャー邊りて行はれて居るものを例にすれば、

(A) ステープル八〇%に對して綿二〇%、或は七五%に對して二五%



(B) ステールブル六〇%に對して綿四〇%、或は五〇%に對して五〇%の如き混紡の割合が行はれて居る。これ等に使用せらるゝ棉花は米棉或は埃及棉何れも良好なる結果を擧げて居る。

ステールブルは又絹糸紡績にも満足なる結果を得られるものである。只原價が綿紡績よりも高くつくので、此點は非常に不利であるが、從來純絹紡績糸が需要せられた方面に向つて相當の將來を有するものと思はれる。

羊毛この紡績は、綿と共に既に英國並に大陸では一般に行はれて居る處であつて、抑々最初にステールブルの混紡を試みたのも羊毛であつた。近年著しく賣出して來た伊太利スニア、グイスコサ社のスニアファイルに例をこつて見るも、羊毛この混紡は實際上成功の域に達したもので、伊太利羊毛紡績業者の如きはこの見地から人造羊毛の將來に對して多大の期待を有して居る。實際の經驗として某紙に記載せられたものに依れば、スニアファイルと羊毛との混紡に依る屑の出來高を、十五%乃至八%に迄減じ得た由である。之は取りも直さずスニアファイルの有する粘靱性の極めて高い事を立證するものであり、この意味に於て南米産の比較的下級の羊毛とても混紡し得る事を附け加へて置く必要がある。伊太利に於て普通に行はれて居る混紡の割合は、スニアファイル六五%、羊毛三五%、或は六〇對四〇%

である。言ふ迄も無くこれ等混紡糸は純羊毛よりも著しく廉價である。

次に現在行はれて居る人造羊毛の製造會社と、各會社の特殊製品中比較的名前の通つたものを列擧して見やう。

#### △ 獨逸

◆ ヴイストラ (Vistra) 最も古くから行はれて居り、且つ代表的のものとして、コルン・ロットワイル (Korn-Rottweil A.G.) のヴイストラがある。ヴイストラは伯林の販賣代理店ヴイストラ・カムバニーに依つて、賣り出されて居るものであるが、生糸、綿、羊毛、其他屑等と紡績して、其の結果良好なる事は既に一般に定評がある。

◆ スピンストラ、並にスピンストロ (Spinstra, Spinstro) これはゼーレンドルフ社 (Spinstoffabrik G.m. b. H., Zehlendorf) の製品であつて、手觸りの優秀なる事を誇りとして居る。

◆ 最近の報道に依れば獨逸に於けるセルローズの一大供給會社である Zellstoc-Werke Hof は其の子會社として、ウール・シルク會社を新設、ヴイスコース式による人造羊毛の製造に従事する由である。尙同社は既に人造羊毛製造の目的を以て人工的に纖維の表面を粗にして、羊毛類似の纖維を生産し得る特許を買收所有して居る。



## △ 伊 太 利

◆ スニアフィル (Sinfil) は云ふ迄も無く伊太利スニア・スイスコ社の製品であるが、近來著しく賣出して頗る有名になつた。同社は既にスニアフィル専門の工場を持つて居り將來この方面にも力を傾注せんとして居る模様である。

◆ セリス並にシャチレン (Seris, Chaitaine) 伊太利に於てはスニアの外に同國第二の大會社たるシャチロン社の製出にかゝる上記二種の人造羊毛がある。セリスは織度の大小に依つて三種類に分つて居るが、其の最も細番に至つては、銅アムモニア絹並に生糸を凌駕するものがある。尙セリスの特徴は紡織上の必須條件たる比較的高い摩擦力を有して居る事である。

シャチレンも亦セリス同様多年同社が紡織業者と共に研究して製出せるもので、一見羊毛と異らない。且つ羊毛との混紡は最も好適で、製織後は手觸りもよく、保温に適し被服材料として充分なる價値を有するものである。殊にメリヤスに使用せられて、洗濯もきゝ皮膚を刺戟する事がない。

## △ 英 吉 利

◆ カット・ファイプロ (Cut-Fibro) はコートルツ社の製品として有名である。尙この外に英國に於ては、

◆ アーティファイシャル・フィラメント・シンジケート (Artificial Filament-Syndicate)

◆ ヌメラ (Nuera Artificial Silk Co.)

◆ スコツティッシュ・アマルガメータード (Scottish Amalgamated Silks, Ltd.) 等に於て人絹製造の傍ら人造羊毛の製造に従事して居る。

◆ 尙近報に依ればブリテイッシュ・セラニーズ社に於てアセテート人造羊毛の製造に着手すべき事が同社々長ドレイフス博士に依つて發表されたる旨傳へられて居るから、英國に於ける人造羊毛界は今後急激なる發達を見るであらう。

## △ 佛 蘭 西

◆ 尙佛蘭西では La Soyeuse Francaise, Rantigny 等に於て人造羊毛の製造に従事して居る。

米國に於ては人造羊毛の製造は從來殆んど無かつたと云つてよい。それは米國では歐洲に於けるが如き人造羊毛の需要が無かつたからである。然るに昨年々初以來生産數量も僅少ではあるが、漸やく勃興の萌しを見せ、其の爲屑糸の需要に對して幾分の影響を現して來た模様である。人絹製造方法の進歩に従つて、屑糸の出來高が漸減して行く事は當然であるが、斯る事情の下に人造羊毛が次第に進出するの亦見逃せないところであらう。



尙新聞の報道に依ると從來の人造羊毛の製造原理とは全然別個の植物性纖維そのものを原料とする人造羊毛が製造せられつゝある由であるが、英國の *Artificial Wool Co.* の如きは、この種製品の製造に従事しつゝあるものと思はれる。要するに人造羊毛の將來は今後益々多事を加ふ事となるであらう。

## 綿交織方面への進出

人絹は當初絹の模倣を目的として造られた爲めに、生糸の敵と目せられて居た。然し乍ら人絹本來の特質は、生糸の如く生産の點から云つて極くスケールの小さなものを相手としてゐない事は云ふ迄もない。なる程其の外観は頗る生糸に酷似して居るけれども、其の大量生産に適し、従つて一般階級の需要を目標とせる點に於てこれを生糸と對比せんとするが如きは全然當らない。この事は近來漸く一部識者の間に認めらるゝに至つた。然らば人絹の今後進むべき道は何か。綿との交織。これが即座に與へらるべき回答である。人絹今後の進むべき道は綿との提携を措いて外にない。現今歐米に於ける傾向は最早明瞭にこの事實を立證しつゝある。暫らく例を擧げて説明を試みやう。

### (一) 諸外國に於ける人絹綿交織の發達

米國に於ける二大人絹會社 *ツイスコ* 並に *デュボン* 兩社の一九二四年以降二八年に至る累年の用途別出荷割合に就て見るに、兩社とも綿交織方面に仕向け







天	〇・六〇%	八四〇
鷺	六・一五%	八、六一〇
雜	一〇〇%	一四〇、〇〇〇
計		

右表に就て見らるゝ通り、米國に於ける人絹、綿交織物方面に消費せらるゝ割合は、肌着並に靴下等のメリヤス方面に使用せらるゝ割合には及ばないが、メリヤスに次での大量を占めて居る。これは取りも直さず、近年に於ける人絹消費方面の傾向を示すものであつて、獨り米國に於てのみならず、歐洲に於てもこの傾向は頗る顯著なるものがある。倒へば其の一例として、英國に於ける人絹織物の輸出入の數字に就て見やう。

先づ輸出方面に就て云へば、一九二九年十一月迄の十一月間に輸出せられた人絹織物の總額を一〇〇%として、双人絹並交織布（主として綿交織布、少量の毛絹織布をも含む）の各割合を示せば、前者僅かに九%に對して後者は殆んど大部分の九一%を占めて、如何に輸出方面に於て綿交織布が重要な位置を占めつゝあるかを現實に立證して居る。前年十一月月間の統計も、亦五%に對して九五%を示して、尙一層明かに此の事實を裏書して居る譯である。

更に輸入方面に就て見るも、一九二九年十一月月間双人絹三〇%に對して交織

七〇%、前年同期二八%に對して七二%と殆んど大同小異の數字を示して居る。詳細は左表に就て見られ度い。

英國人絹織布輸出入高（單位封度）

輸出の部	一九二八年十一月月間	一九二九年十一月月間
双人絹	六九四、四〇〇	一、一一七、八〇〇
交織	一四、六五〇、九八三	一一、八三四、〇八四
計	一五、三四五、三八三	一二、九五一、八八四
輸入の部		
双人絹	二、四一五、七二三	三、二五七、七九九
交織	六、一八七、七四七	七、七〇五、五〇八
計	八、六〇三、四七〇	一〇、九六三、三〇七

以上は米、英に於ける大勢であるが、この大勢は實に歐米にのみ止らない。東洋方面の各市場に於ても亦人絹織布需要の大部分は、人絹、綿交織布であること云つても過言ではない。

この意味に於て綿との交織を除外して今後の人絹事業を想像する事は絶対に不可能であると云ひ得る。假りに上海に於ける昨年中の人絹織物輸入額に就て



其の内譯を検討して見るに、同年に於ける輸入總額は約八百萬碼であつたが、其の内人絹、綿交織布は七一%、雙人絹織布は一一%、其の他の交織布が一八%と云ふ割合になつて居る。即ち支那市場にあつても亦綿交織布は重要なパートを占めつゝある。詳細左表の通りである。

昭和四年中上海港人絹織物輸入高 (單位碼)

	上半期	下半期	昭和四年中
人絹綿	三、四九、四六六	二、三二、六九三	五、七三、一六〇
双人絹	三、六〇、八二九	五、六、二七二	八、七、一〇〇
其他交織	八〇〇、六五九	六三七、〇八一	一、四三七、七四〇
合計	四、五〇、九七六	三、四六五、〇四五	八、〇四六、〇二一
	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%

更に又最近本邦にあつても著しく輸出を増加した英印市場に就て見るも、その輸入額は殆んど全部綿交織布を以て占められて居り、累年左表の通り激増の傾向を示して居る。

英領印度人絹織布輸入高 (單位碼)

(四月—翌年三月)

一九二五—六年	一五、三六二、〇〇二
---------	------------

一九二六—七年	四一、九七八、二七四
一九二七—八年	五三、一四〇、七九一
一九二八—九年	四九、八〇一、〇四六
一九二九年自四月至十二月	三五、二〇三、一五六

### (二) 遅々たる本邦の實狀

前述の通り人絹、綿交織の發達は近年の人絹界に於ける世界的の一大傾向と云ふを得べく、この波に乗り得ないならば、所詮人絹の前途は知れたものである。然るに本邦に於けるこの方面の事情はどうであるか。未だく前途遼遠と云ふの外はない。茲に一二の例を擧げて説明を試みる事とする。

福井地方に於ける人絹織物の生産は最近著しく發達して、正に本邦に於て第一位にあるものであるが、昭和三年中同地方内地向人絹織布に就て其の内譯を見るに左の通りである。

昭和三年福井地方内地向人絹織物生産高 (單位圓)	
交織	八七〇、二〇六
双人絹	六、九一〇、五二八
	一一%
	八九%



計 七、七八〇、七三四 一〇〇%

即ち交織布（殆ど綿交織少量の絹交織をも含む）の一〇%に對して双人絹は八九%の大部分を占めて居る。これを前記諸統計に比すれば、勿論數量と價格と單位も違ひ、事情も異つて居るから對比困難であるが、恰も位置を變へて、反對の現象を呈して居る。

この事は内地向に就てのみ云ひ得るばかりでなく、輸移出向に對しても大局からみて同様の數字が現れて居る。即ち左の通りである。

福井地方輸移出向人絹織物生産高（單位圓）

	昭和三年	昭和四年
交織	二、〇二四、八一七	二、二二二、六一七
双人絹	七、〇六五、三一七	一七、四三〇、四九八
計	九、〇九〇、一三二八	一九、六四三、一一五

更に又西陣に於ける昨年度の人絹織物の生産總額の内譯に就て見るも、双人絹が絶對多數を占めて居る事に變りはない。

即ち點を單位として見れば、双人絹七八%に對して綿交織六%、又價格に就て見れば、五六%に對して一六%と云ふ數字を示して居る。

昭和四年西陣人絹織物生産高

双人絹	四、〇二二、七〇七(點) 七八%	一一、一三八、一一二(圓) 五六%
綿交織	二八七、〇九四	三、一〇〇、八二二
其他交織	八三六、九八三	五、六七六、八六〇
計	五、一三六、七八四	一九、九一五、七八四

要するに本邦に於ける人絹綿交織方面の發達は、最近漸やく其の萌芽を見せつゝあるとは云ふものゝ、之を歐米諸國の實狀に照らせば、其の發達の遅々たるは固より云ふ迄もない。

然し乍らそれ丈前途を有する譯であつて、本邦綿機業地に於ける人絹交織の發達は、人絹界將來の最も大きな問題の一つであらう。

試みにマンチエスター萬國紡績聯合會調査に依る一九二八年中に於ける世界棉花の消費量は二五、四二一、〇〇〇俵（二百一億六千八百萬封度）であるが、其中本邦の消費は英國に次いで二、五六〇、〇〇〇俵（十億二千四百萬封度）を占めて、世界に於ける有数の棉花消費國となつて居る。然して假りにこの一割が人絹と交織せらるゝと假定せんか、約一億封度の人絹原糸が全く餘分に必要になつて來る譯である。現在人絹の相場は一時に比して著しく低下し尙今後と雖も多少の



値下りは期待し得る處であるから、綿との交織は本邦に於ても亦世界的な大勢に順應して今後一層促進せらるべきは疑ひを容れない。

殊に輸移出方面にあつては、前述せる通り本邦品の最大顧客たる印度並支那の需要大勢が、何と云つて綿交織物を除外しては考へられないのであるから、大勢の趨く處は最早一つである。更に又人絹織物消費税と云ふ一大難關が撤廢された曉は、綿方面への人絹の進出は、蓋し眞に驚くべきものがあらう。

今参考の爲めに商工省調査に依る昭和二年度の各主要府縣に於ける綿織物の生産高並機臺數を掲げて、今後何れの方面に於て、綿交織への需要の可能性があるかを考へて見やう。

府縣別	生産價格(圓)	機臺數
愛知	一九〇、三二九、五六一	五〇、〇三九
大阪	一六二、三〇二、六八五	六四、八二六
静岡	四五、六四一、九六三	三一、〇三九
兵庫	四三、七四五、六二九	一六、一六一
愛媛	三八、六〇三、四五一	四〇、三七二
岡山	三四、三六四、七九一	一〇、八八五

和歌山	二七、七二四、四二一	六、九〇三
三重	二六、五九四、八六八	一一、八三三
福岡	一六、四四五、七九九	二〇、〇六九
東京	一二、五四八、九二六	八、二九七
埼玉	一一、三五一、〇一六	一一、五四〇
岐阜	一一、三〇三、五七二	五、七七三
奈良	一〇、九四六、一八〇	一〇、七六九
徳島	一〇、八一二、八三七	五、四三四
廣島	一〇、四一四、三八二	一三、五五五
栃木	一〇、〇二五、七四八	七、〇二七
計(其他を含む)	七二五、三八九、三二六	三六九、一〇九

云ふ迄もなく、綿業國としての本邦は最早盤石の基礎の上に立つものである。この際人絹との握手は、綿業自身にとつて亦最大の喫緊事たるを失はない。見よマンチエスターに於ける綿業が如何に密接に人絹と提携せるかを。



### 本邦に於ける生産並輸出入

#### (一) 本邦に於ける生産

本邦に於ける人造絹糸の生産高は累年著しい發達を遂げたが、就中茲兩三年來の躍進は、帝人、旭、三重の既設會社に加ふるに、大正十五年には東洋レーヨン、東京人絹、倉敷絹織、日本レーヨンの各社、昭和三年には昭和レーヨンの各創立に依つて、一層顯著なるものとなつた。殊に昭和四年度に於ける生産總額は約二千七百萬封度に達して、世界に於ける有數の人絹生産國となつた譯である。今本邦に於ける各人絹製造會社と大正七年以降累年の生産額を示せば左表の通りである。

資本金	拂込資本金	創立年月	
			帝國人造絹絲株式會社
二一、〇〇〇(千圓)	二一、〇〇〇(千圓)	大正七年六月	
八、〇〇〇	六、〇〇〇	大正十一年五月	
一、〇〇〇	六七五	大正十三年八月	
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	大正十五年一月	

東京人造絹絲株式會社	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	大正十五年三月
倉敷絹織株式會社	一〇、〇〇〇	三、五〇〇	大正十五年六月
日本レーヨン株式會社	一五、〇〇〇	六、〇〇〇	大正十五年七月
日本毛織株式會社	五〇、〇〇〇	二七、五〇〇	昭和二年十月 (人絹部設置)
昭和レーヨン株式會社	一一、〇〇〇	七、八〇〇	昭和三年三月
日本ベンベルグ絹絲株式會社 (未だ操業開始に至らず)	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	昭和四年四月

(昭和四年末現在)

#### 本邦累年人造絹糸生産高

大正七年	一〇〇、〇〇〇	(封度)
大正八年	一四〇、〇〇〇	
大正九年	二〇〇、〇〇〇	
大正十年	二五〇、〇〇〇	
大正十一年	五二七、〇〇〇	
大正十二年	七八〇、〇〇〇	
大正十三年	一、三六八、〇〇〇	
大正十四年	三、二〇〇、〇〇〇	



大正十五年	五、〇〇〇、〇〇〇
昭和二年	一〇、五〇〇、〇〇〇
昭和三年	一六、五〇〇、〇〇〇
昭和四年	二七、〇〇〇、〇〇〇
昭和五年	自一月一〇、七二二、〇一〇 至四月

右表に就て見らるゝ通り、大正七年の生産は僅かに十萬封度に過ぎなかつたのであるが、これを昨昭和四年度の二千七百萬封度に比すれば、僅々十一ヶ年の間に約二百七十倍と云ふ驚くべき發展振を示した譯である。この間帝國人絹會社は本邦に於ける最古にして且つ最大の製造會社として、常に國內生産高の大半を供給し、本邦人絹界發達の上にも尠からぬ貢献を爲せる事は世人の認むる處である。然かもこの間に於ける製品々質の進歩は著しいものであつた。殊に最近に至つては帝人會社の五十デニール並にマルチファイラメント糸さへ出現して、機業家方面の年來の希望にそふと共に、名實共に世界的人絹生産會社として悠々調歩しつゝある。

尙昭和四年九月より日本人絹聯合會に依つて、其の加盟會社なる帝人、旭、東洋、日本、三重、東京、昭和、倉敷、ペンベルグ（操業開始に至らず）の九社月産總計が發表せ

られて居るが、各月の數字は左表の通りである。

人絹聯合會發表月産額

昭和四年九月	二、四六〇、九九〇（封度）
十月	二、五八四、〇八〇
十一月	二、六七七、六四五
十二月	二、六四三、二八〇
昭和五年一月	二、五二六、〇四〇
二月	二、六一三、〇二〇
三月	二、七七一、九五〇
四月	二、八〇一、〇〇〇

(二) 人絹原糸の輸出入と同織布の輸移出

人絹原糸の輸入。本邦に於ける人絹原糸の輸入は、國內に未だ人絹の製造せられなかつた大正元年以來漸次増加を告げ、大正十五年には約三百三十萬封度を輸入して、本邦に於ける人絹輸入數字の最高記録を作つたが、同年四月より實施せられた輸入關稅の引上（百斤に付百二十五圓）と國內に於ける人絹工業が漸く搖



盤時代を脱して、自給自足の道を講ずるに至つた爲めに、概して漸減の傾向を辿りつゝある。

今大正元年以降累年の輸入額を示せば左表の通りである。

大正元年	一六一、九七二 (封度)
大正二年	一六九、九七三
大正三年	一七五、三二五
大正四年	一八〇、九四〇
大正五年	四二、〇五二
大正六年	一三二、二三二
大正七年	七七、〇八六
大正八年	七五、七一六
大正九年	七九、八〇五
大正十年	一三八、〇二九
大正十一年	二二六、四〇九
大正十二年	九五二、二二四
大正十三年	八一〇、〇二五

大正十四年 八三三、一〇〇  
 大正十五年 三、三一七、九二二  
 昭和二年 七九八、六七二  
 昭和三年 二五六、七六三  
 昭和四年 六二四、九八〇  
 昭和四年自一月至四月 一七二、七二一  
 昭和五年自一月至四月 二六三、一四九

更に之を記録的の大量を輸入した大正十五年以來累年の各仕出國別の數字に就いて見れば、昭和二年度を除いて常に伊太利製品が最も多量を占めて居る事を見逃す事は出来ない。即ち大正十五年以降輸入總額に對する伊太利の取得率を見るに、

大正十五年	三一%
昭和二年	二六%
昭和三年	三九%
昭和四年	六七%

右の通り、何と云つても本邦輸入品中、斷然頭角を現して居る。



殊にこの傾向は近年に至つて甚しい。英吉利品の如きは、大正十五年當時にあつては伊太利供給額と大なる逕庭を見なかつたのであるが、累年其の地歩を他國品に奪取せられて、昭和三、四年兩年度の如きは、僅かに其の供給額、各二、〇四九斤、二八、六〇六斤（一斤は三分の四封度）と激落した。一方昭和四年度に於て著しく其の地歩を固めたのは獨逸製品であらう。同年中輸入總額の約一五%を供給し伊太利の六七%には及ばないけれども、兎に角第二位を占め、然かも伊太利の下級品なるに反して高級品を供給しつゝあるのは見逃し得ない。各國別の數字は左表の通りである。（但し單位斤、一斤は三分の四封度）

本邦各仕出國別人造絹糸輸入高

國別	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年
英吉利	五四二、五〇九	一〇八、八二五	二、〇四九	二八、六〇六
伊太利	七六七、二四七	一五四、一四三	七四、五六七	三二二、八三三
獨逸	二九五、六七三	一六七、九二九	一三、〇五四	六九、二五〇
佛蘭西	二六一、六三〇	三六、四九六	二七、三七四	七、二三三
白耳義	六一、六六〇	四二、三八八	八三二	—
和蘭	二六〇、三八三	四〇、二八九	二一、三三八	三〇、八三五

瑞西	二八八、一二九	四八、三〇五	三五、三〇七	一七、五三三
北米	—	六二八	一八、〇五一	二、二九二
其他	一一、二一〇	七五六	—	一五三
計	二、四八八、四四一	五九九、七五九	一九二、五七二	四六八、七三五

○本邦各月人造絹糸輸入高

	昭和三年	昭和四年
一月	一〇、五八〇(斤)	一九、四八五(斤)
二月	九、三七七	二五、七一八
三月	一八、一五一	四〇、九三四
四月	一五、〇七四	四三、三九六
五月	二二、五四二	三七、七三五
六月	二九、六六三	五〇、七二二
上期小計	一〇五、三八七(斤)	二二七、九九〇(斤)
(價格)	二四三、四六七(圓)	四〇一、九六六(圓)
七月	七、五四四	六〇、五九六



八 月	一三、六四七	五五、六五二
九 月	一三、七〇〇	五二、六一一
十 月	一八、七一八	三八、二五一
十一月	一八、九〇一	二六、九七一
十二月	一四、六七五	一六、六六四
合 計	一九二、五七二(斤)	四六八、七三五(斤)
(價 格)	四五六、九八二(圓)	八五五、〇六六(圓)

然して之等輸入人絹はこれを内地に於て織布として再輸出する場合は該織布の人造絹糸構成量に對して、百斤に付き百二十五圓(百封度當り九十三圓七十五錢)の輸入關稅を拂戻さるゝものである。其の額は各港稅關統計に依れば昭和二年以降左表の通りである。

本邦人絹再輸出高

輸入總額	昭和二年	五九九、七五九(斤)	昭和三年	一九二、五七二(斤)	昭和四年	四六八、七三五(斤)
再輸出額		五二、三三〇(斤)		一一七、一五〇(斤)		二三一、三五二(斤)
戻稅額		五七、〇七二(圓)		一四三、六九二(圓)		二八八、四一五(圓)

即ち昭和二年當時にあつては内地人絹市價が比較的高値にあつた爲めに、戻稅を度外に置いて尙採算がとれた關係上輸入總額に對して、再輸出額は僅々一割にも達せない。然るに三年以降内地市價の低落と共に戻稅を目的として輸入せられた爲め輸入總額と再輸出額との關係は著しく接近するに至つた。

人絹原糸の輸出。翻つて人絹原糸の輸出は各年極めて微々たるもので、未だ問題とするに足らない。例へば昭和三年中の輸出總額は、僅かに五一、一一六斤、昭和四年度は稍々増加して、一一五、四〇八斤である。然るに昭和五年に入つて著増し、一月より四月迄の四ヶ月間合計に於て、三七六、六七二斤に達し、前年同期の五、八七三斤に對して目覺しい進境を示しつゝある。昭和四、五兩年度の月別統計は左表の通りである。

昭和四年本邦各月人絹輸出高 (單位斤。一斤は三分の四封度)

一 月	四九	昭和五年	一一二、五〇七
二 月	三〇		一〇〇、〇六〇
三 月	五、七九四		八九、六八六
四 月	—		六四、四一九



小計	五、八七三(七、八三一封度) 三七六、六七二(五〇二、三二九封度)
五月	一、八八七
六月	四五三
七月	三三二
八月	三八
九月	二七五
十月	三七七
十一月	一四、七〇四
十二月	九一、七六九
計	一一五、四〇八(一五三、八七七封度)

右表に就て見らるゝ通り、十一月以降稍々急激に増加せるは、内地糸價の低落と共に漸次對支輸出の機運熟せる爲めてあつて、其後十二月に至つて愈々増加の傾向顯著となつて來たのは、例の人絹貿易組合の成立に就て十二月十五日より内地各社に依つて實施せられた責任額輸出の結果である。其後引合極めて旺盛なると共に、採算も好轉しつゝあるから、この方面の前途は相當期待せられてよい。尙主なる仕向地は支那である。

一月	四六五、六四三(平方碼)	二、四九六、四四二(平方碼)
二月	四一八、四七九	二、八八四、五六四
三月	六二三、三五五	二、九六三、七三九
四月	八四〇、八二四	三、五一三、七〇二
五月	七四六、八五二	三、二六三、一五七
六月	五三六、一四一	二、五一四、六四〇
上期小計	三、六三一、二九四(平方碼)	一七、六三六、二四四(平方碼)
(價格)	二、七〇〇、〇七九(圓)	一一、一四七、九四九(圓)

人絹織布の輸移出。人絹織布(雙人絹、綿交織、其他の交織物を含む)の輸出は昭和三年以降最も顯著なる發展を示した。殊に昭和四年度に至つては一層その速度を早め、前年の一千三百万平方碼に對して四千七百五十万平方碼を擧げ、大約三倍半以上の増進を示して居る。何と云つても急激なる増加と云はなければならぬ。今各月の輸出額を示せば左表の通りであるが、兩年度上期に對して下期各月の著しい増加が特に目立つて居る。

本邦各月人絹織布輸出高(雙人絹、綿交織其他を含む)

昭和三年

昭和四年



七	月	八八一、五九三	四、一二三、九九四
八	月	一、四六二、四五六	四、七二六、一五三
九	月	一、五一九、五四五	四、八八二、六五七
十	月	二、〇四〇、四四〇	五、九一〇、一一七
十一月		一、七二六、七七七	五、〇九五、二七二
十二月		一、七六八、四六五	五、一四四、五四一
合計		一三、〇三〇、五七〇(平方碼)	四七、五一七、九七八(平方碼)
(價格)		八、三二八、五三九(圓)	二七、一六三、三四四(圓)

尙之を各仕出地別に觀察すれば英領印度を筆頭として、海峽植民地、蘭領印度、支那、香港、比律賓、關東州が主なるものであるが、何れの市場に於ても前年に比して著しい發展を示して居る。殊に英印並蘭印市場への著増は最も注目しに價する。

本邦各仕出地別人絹織物輸出高 (雙人絹、綿交織、其他を含む)

支那	昭和三年	二、二二五、四四〇(平方碼)	昭和四年	六、〇〇五、五三八(平方碼)
關東州		一、九六一、八〇七		三、五六八、七七四
香港		二、五五七、五〇二		五、九六三、一七九

比律賓	二、四二八、八〇一	五、三一七、四七二
海峽植民地	一、一一七、七四四	六、九六五、三〇八
佛印	一五、三一九	八四、三三一
蘭印	七四七、二九四	六、四八六、八二七
英印	一、八四五、四一四	一一、二二六、一〇五
暹羅	五三、七一六	九七九、三四五
布哇	—	一八一、八三八
北米	—	二六、八九一
加奈陀	—	八五、七二一
其他	八七、五三三	六二六、六四九
合計	一三、〇三〇、五七〇(平方碼)	四七、五一七、九七八(平方碼)
(價格)	八、三二八、五三九(圓)	二七、一六三、三四四(圓)

(備考) 本表は横濱、神戸、大阪、名古屋、四港の各税關統計に依るものであるが、右の内神戸港輸出分は点を以て單位とせる爲め、便宜之を平方碼に換算した。尙横濱港扱ひには羽二重として別に毎月若干の輸出があるが、(斤)を單位として計上せる爲め本表には含まない。但し其等の金額は十二ヶ月間を通じて、一〇〇三、八五九圓を示して居る。依つて之等の總てを含む十二ヶ月間の人絹織物輸出金額は二八、一六七、二〇三圓である。



更に昭和五年一月より四月迄の数字は、依然激増の歩を緩めず、殊に英領印度、比律賓、海峽植民地、蘭領印度等の各市場に於て着々有力なる地歩を築きつゝある。四ヶ月間の前年との對比は左の通りである。

(本年から各港税關に於ける人絹織物の統計は凡て一定形式の下に統一せられ、正式に發表せらるゝ事となつたが、羽二重は斤縮、縞、琥珀、朱子等は平方碼其他の人絹織物は數量を明示せざる爲め、従つて總額を見る場合には數量に依る事が出来ない事となつた。左表は金額に依る對比である。)

	昭和四年	昭和五年
一月	一、六四一、〇一〇(圓)	三、七八三、六七〇(圓)
二月	一、九一六、九五五	三、六三四、一〇六
三月	一、九五七、三〇七	三、三九三、三九三
四月	二、一六四、〇六〇	三、四八〇、〇〇六
計	七、六七九、三三二(圓)	一四、二九一、一七五(圓)

右表の通り本年四ヶ月間の輸出價額は、前年同期の大約二倍であるが、世界的不況に依り人絹織物の相場も前年同期に比して低下して居るから數量に於ては價額に依る對比よりも尙著しい増進ありしものと見なければならぬ。今昭和四年度各仕出國別數量中主なるものに就て、總額に對する各取得率を示

せば左表の通りである。

英領印度	二四%
海峽植民地	一五%
蘭領印度	一四%
支那	一三%
香港	一三%
比律賓	一一%
關東州	八%

以上は人絹織物の諸外國への輸出であるが、この外に朝鮮並に臺灣等植民地へ仕向けらるゝものも亦相當額に上つて居る。即ち朝鮮總督府殖産局の調査に依る人絹織物の移入高は、金額にして昭和二年度約四百萬圓、三年度六百八十四萬圓、四年度七百八十六萬圓に達して居る。移出方面を輕視し得ない所以も亦こゝにある。詳細左表の通りである。

朝鮮人絹織物移入高

種類別	昭和二年	昭和三年	昭和四年



双人絹	(二、〇三九、八九二(平方碼) 一、二〇四、〇四二(圓))	六、二七五、七五七	九、六七八、一五六
人絹、絹交織	(三一四、六五九(平方碼) 三五二、二二三(圓))	五、二二六、九五九	六、一二七、四九六
人絹、綿交織	(二、七二四、〇三九(平方碼) 二、五六八、七八四(圓))	八七七、一五二	一、五〇五、六九八
計	(五、〇七八、五九〇(平方碼) 四、一二五、〇四九(圓))	九九六、三八四	一、四二〇、一三九
		一、二二一、七七四	六三一、一八三
		六二四、三五二	三一八、八二六
		八、三七四、六八三	一一、八一五、〇三七
		六、八四七、六九五	七、八六六、四六一
臺灣人絹織物移入高			
昭和二年	一、〇二三、四八五(圓)		
昭和三年	四四八、四二八		
昭和四年上半期	一八八、八三四		
昭和四年下半期	一〇六、二九三		

更に又臺灣へ仕向けられるものも、臺灣總督府殖産局調査に依れば (數量及種類別内譯不詳) 昭和二年以降左の通りの數字を示して居る。

(朝鮮總督府殖産局調査に依る)

輸出	昭和三年	八、三二八、五三九(圓)	昭和四年	二七、一六三、三四四(圓)
朝鮮向移出		六、八四七、六九五		七、八六六、四六一
臺灣向移出		四四八、四二八		二九五、一二七
合 計		一五、六二四、六六二		三五、三二四、九三二

(備考) 尙輸出向數字の内には羽二重を含まない。

依つて本邦の昭和三、四兩年度に於ける人絹織物 (双人絹、綿交織其他を含む) の輸並移出總額は之を金額に見積つて大體左表の通り、昭和三年度約一千五百六十萬圓、昭和四年度約三千五百三十萬圓に達する譯である。詳細左表の通りである。

昭和三年より四年への増進率は約二倍以上に該當して居るから今假りにこの割合を以て昭和五年度を律するとするならば、實に大約八千萬圓の巨額に達する譯である。



### 本邦に於ける人絹の消費

#### (一) 各機業地に於ける人絹織物の生産状態

内地に於ける人絹製造技術の發達と共に消費方面も亦著しく進歩した。即ち一般消費者階級の人絹に對する理解が漸次、人絹機業家方面への人絹製織技術の進歩を促す結果となり、當初主として、打紐、肩掛等の極く限られたる範圍にのみ應用せられて居つた人絹糸も近年に至つて、一般階級の衣服原料の必需品として、帶地、着尺方面に又朝鮮、臺灣の移出向に、印度、支那、南洋方面の輸出向に、行くとして可ならざるなき有様となつた。殊に輸移出向の急激なる發展は、本邦に於ける人絹糸消費に對して重要なるエポックを劃せるものであつて、其の將來が内地向に比して、一層洋々たるものであるだけ、今後大いに期待せられてゐる譯である。

例へば福井に於ける輸移出向紋、平織、或は桐生に於ける朝鮮並印度、支那、南洋向の人絹紋朱子、人絹羽二重の如き、本邦に於ける人絹輸移出織布の中心を爲すものであつて、殊に近年其の發展は目覺しいものがある。假りに福井並に兩毛（桐生

及足利)に於ける昭和三、四兩年度の輸移出向生産額(見積價額)をとつて見れば左表の通りであるが、其の増進率は實に八七%を示して居る。

	昭和三年	昭和四年
福井	九、〇九〇、〇八二(圓)	一九、六四三、一一五(圓)
兩毛	六、四四五、一〇五	九、三五八、六四六
合計	一五、五三五、一八七	二九、〇〇一、七六一

其他内地向、着尺類、帶地等にあつても漸次、其の製品に新工夫が凝らされ、優秀なるものが生産さるゝに至つたが、同時に織物の各種の部門に亘つて漸く其の範圍が擴大され、今や全国各地の機業地に於て殆んど人絹の使用せられざるものなき迄に至つた。殊に人絹、綿交織方面への進出は、福井、尾州、遠州、青梅、見附、足利、館林、佐野、葉鹿、紀州、泉州、備後、並に伊豫等に於て漸く其の萌芽を見せ、この方面の今後の發展は大いに期待せられて居る。左表は主要組合に於て生産せらるゝ主なる人絹織物を示せるものである。

組合名	主要織物
福井	輸移出向紋並に平織、ポイル、佛蘭西縮緬
桐生	朝鮮、印度、支那並に南洋向人絹紋朱子、並に羽二重、文化九寸、胴裏



西陣	地博多九寸糸錦廣帶
足利	帶地並に組紐
米澤	紋朱子、錦紗、御召
丹後縮緬	ミヅホ絹男帶、内地着尺
山梨縣南都留郡	縮緬
山梨縣北都留郡	傘地
石川縣能美郡	甲斐絹
尾州	人絹羽二重、縮緬
岐阜縮緬	毛交織物、撚糸
石川縣江沼郡	縮緬
佐野	朱子
三河	縮み
尾州絹	綿織物
遠江	縮緬、羽二重
加茂	内地着尺
	同

見附	同
中備	雜綿
備後	同
名古屋	組紐、雜貨

更に之等を生産數量並見積價額の點から見ると、昨昭和四年中に於ける全國主要組合の内地向並輸移出向の織物總額は生産數量に於て、一七、七三六、二八六點、金額に於て九二、四二二、一六九圓を示して居る。この内輸移出向は三〇、六二四、六四二圓を占め、割合にして約三割三分に該當する。

又内地向は六一、七九七、五二七圓に達し、總額の約六割七分を占めて居る。

尙之を一ヶ年見積價額百萬圓以上を生産する各機業地組合別に見ると、福井並桐生は全國人絹機業地中斷然他を壓して、内地輸移出向を併せて、前者約二千八百四十萬圓、後者二千五百七十萬圓を計上して居る。次で西陣の一千九百九十萬圓、足利の三百三十萬圓、米澤の二百四十萬圓、丹後縮緬の百七十萬圓、山梨南都留郡並に北都留郡の各百三十萬圓、石川縣能美郡の百二十萬圓、尾州の百十萬圓等である。然して之等各地組合に於ける内地向並に輸移出向の生産額（見積價額）の割合を見るに、概略左の通りである。



組合名	内地向割合		輸移出向割合		總額(圓)
	數量(點)	價額(圓)	數量(點)	價額(圓)	
福井	三一%		六九%	二八、四九九、三一四	
桐生	六五%		三五%	二五、七五〇、八〇四	
西陣	一〇〇%		—	一九、九一五、七八四	
足利	八七%		一三%	三、三四〇、九七〇	
米澤	九三%		七%	二、四四九、二〇六	
丹後縮緬	一〇〇%		—	一、七〇三、五三九	
山梨縣南都留郡	八九%		一一%	一、三九五、五三一	
北都留郡	九六%		四%	一、三七七、六〇五	
石川縣能美郡	一〇〇%		—	一、二五三、八九四	
尾州	八五%		一五%	一、一九三、三六〇	

右表に就て見らるゝ通り、本邦に於ける人絹機業地としての二大大關たる福井並に桐生に於ける内地向並に輸移出向の各割合は、恰も正反對の現象を呈して居る譯である。即ち福井が輸移出を主とせるに對して桐生は内地向に重きを置き何れも總産額の大半を占めて居る。詳細の數字は左表の通りである。

昭和四年度全國主要組合人絹織物生産高

組合名	輸移出向		内地向		合計	
	數量(點)	價額(圓)	數量(點)	價額(圓)	數量(點)	價額(圓)
福井	一、九六、八二	一、九六、四三、二五	一、〇〇、四七九	八、八五、一九九	三、〇〇、二九〇	二六、四九、三三四
桐生	五、〇、四四五	八、九六、三五五	三、六五、一四三	一、六三、三三九	四、二四八、一五〇	二五、七五〇、八〇四
西陣	—	—	五、一三、七四四	一九、九五、七四四	五、一三、七四四	一九、九一五、七四四
足利	三、七、七四三	四、〇〇、〇八一	一、五三、三三七	二、九〇、八八九	一、五三、三三七	三、三四〇、九七〇
米澤	一、一、二四〇	一、六、九四六	五、〇、八九六	二、四三、二六〇	五、六二、一三六	二、四四九、二〇六
丹後縮緬	—	—	一、四三、三七七	一、七三、三五九	一、四三、三七七	一、七〇三、五三九
山梨縣南都留郡	一、三、九三六	一、六七、三三九	一、〇七、〇〇〇	一、三六、一九三	一、三〇、九三六	一、三九五、五三一
山梨縣北都留郡	六、四、四三三	五、三、〇〇三	四、六、九六一	一、三五、六〇三	四、六、九六一	一、三七七、六〇五
石川縣能美郡	—	—	九、八、四九九	一、三五、八九四	九、八、四九九	一、二五三、八九四
尾州	六、三、四四五	一、八四、五七〇	四、八、九三五	一、〇〇、八七〇	五、三、三三〇	一、一九三、三六〇
岐阜縮緬	二、一、八〇一	一、〇二、四四四	一、五、九九九	八〇、五、一四三	一、六、七四〇	九九五、五六七
石川縣江沼郡	—	—	三、三、五九四	八五、三、五四四	三、三、五九四	八五三、五四四
佐野	一、二、七九九	九三、一八五	二、七、一五〇	七三、七五四	二、七、八六九	八二四、九三九
三河	一、七、八〇〇	五七、七〇〇	七、〇〇〇	九、九〇〇	一、四五、四〇〇	五八二、六〇〇
尾州	—	—	六、八、八二五	四七、一四九	六、八、八二五	四七六、一四九



計	和歌山	小須戸	岐阜絹袖	竹ヶ鼻	備後沼隈	邑樂	西備	今治	三河中央	十日町	名古屋	備後	中備	見附	加茂	遠江
三、五三、一六九	五、六九〇	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	二、一〇〇	一、一七一	一、一七一	三、七三、三二一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一
三〇、六三、六四三	不詳	一、五、九九五	一、五、九九五	一、五、九九五	一、五、九九五	一、五、九九五	一、五、九九五	一、五、九九五	六〇、八四四	一、一七一	一、一七一	三、四、九四七	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一
一、四、八、三、一七	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一
六、七、七、七、七	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一
一、七、七、七、七、六六	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一
九、三、三、三、一六九	不詳	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一	一、一七一

(備考) ○本統計は全國各主要組合に書面を以て照會せるものゝ内回答を得たるもの

○本統計に於て人絹織物とは双人絹織物、其他の交織物凡てを含む

○金額は凡て見積額

○本統計の輸移出合計三〇、六二四、六四二圓が前述昭和四年度の本邦の各港税關の輸出統計並に朝鮮、臺灣殖産局調査の移入統計總額三五、三二四、九三二圓と著しく相違せるは、各調査の基礎を異にし、且つ前者は主要組合の各生産見積額なるに反して、後者は主として輸出のインボイス面に依れる爲ならん。

(二) 各機業地に於ける人絹の消費

扱て之等機業地に於て需要せらるゝ人絹の消費量は、生産並輸出入を考慮せる供給量に對して如何なる關係にあるであらうか。今各地の調査機關に依つて調査せられた昭和三、四兩年度に於ける各地方の消費を見るに、大約三年度に於て一千六百四十四萬封度、四年度に於て二千七百三十三萬五千封度に達して居る。これに對して三年度の供給高は左表の通り(累年遂次持越されるストックは考慮外に置く)約一千六百六十八萬八千封度、四年度約二千七百四十七萬一千封度であるから、供給に對する需要のバランスは極めて圓滑に行はれて居るものと見な



ければならない。各地方別消費高は左表の通りである。

本邦地方別人絹消費高 (單位千封度)

	昭和三年	昭和四年	昭和五年一月—四月
福井地方	五、二五〇	一一、三五九	五、六二四
兩毛地方	四、二七〇	五、三一六	二、一九〇
京都地方	三、八〇〇	四、六七〇	二、〇五四
其他地方	三、一二〇	四、九九〇	一、八九〇
合計	一六、四四〇	二七、三三五	一一、七五八
内地生産高	一六、五〇〇	二七、〇〇〇	一〇、七二二
輸入高	二五六	六二四	二六三
輸出高	六八	一五三	五〇二
差引供給高	一六、六八八	二七、四七一	一〇、四七三

備考 各地消費高統計は、福井地方は福井レーヨン特報、兩毛地方は兩毛人絹協會ニュース調査に依り京都地方は各運送店等の調査を基礎とし、帝人出荷を加算せるもの。其他は帝人出荷を基礎として算出せるものなり。

### 本邦人絹市價の變遷

本邦に於ける各社の人絹販賣制度の變遷を辿つて見ると、これを大體左の三期に分つ事が出来る。

- 一、渾沌時代 大正十一年六月迄
- 二、定價時代 自大正十一年六月至大正十五年十二月
- 三、成行相場時代 大正十五年十二月十五日以降

#### (一) 渾沌時代

即ち一は渾沌時代であつて、この時代の初期はA B等の格付は勿論、デニール別さへ未だ確立し居らず、當時の古い記録によれば二百、二百五十デニール込みで取引した等の事もある位である。當時人絹會社は帝人一社であり、且つ人絹そのもの、需要も未だ極く限られた範圍に止り、第一生産高の如きも今日一日の生産にも達せない有様であつたから、従つて相場と云ふものゝなかつた事は勿論であるが、賣値の高かつた事も亦御話しにならない。今其の一例として、當時の古い記録



の中から某商店の買入値段を引抜いて御参考に供する。

(左表中アニールの表示なきは大部分二百、二百五十アニールの込みなり。尙東印と云ふのは當時帝人製品を左様呼んで居つたのである)

某商店買入値段 (帝人品) 百封度當り

- 大正六年五月 東印 四五〇圓
- 同 六月 東印 改良 五〇〇圓 東印 四五〇圓
- 同 九月 東印 五二二圓半
- 大正七年一月 東印 五〇〇圓
- 同 五月 東〇印 四五〇圓 舊品 四〇〇圓 (格付ノ始マリ)
- 同 六月 東印A 四五〇圓 B 四〇〇圓 (格付A Bノ名稱定マル)
- 大正七年八月 東印A(一五〇)六〇〇圓 B(一五〇)五五〇圓 東印A 太四五〇圓
- 同 十一月 東印細七〇〇圓 B 細五五〇圓 A 太六五〇圓 B 太四〇〇圓
- 大正八年四月 東印A 細五〇〇圓 B 細四〇〇圓
- 同 六月 東印A 二五〇六五〇圓 A(二〇〇)七五〇圓 (以後アニール別ニテ値ヲ定ム)
- 同 七月 A(一五〇)九〇〇圓 B(一五〇)八〇〇圓 A(二〇〇)七五〇圓 B(二〇〇)七〇〇圓 A(二五〇)七〇〇圓 B(二五〇)六五〇圓

- A(三〇〇)六五〇圓
- 同 九月 B(二五〇)八〇〇圓 B(二〇〇)八五〇圓 B(二五〇)六五〇圓
- 同 十月 A(二〇〇)九五〇圓
- 大正八年十二月 A(二〇〇)一、〇〇〇圓 B(一五〇)九五〇圓
- 大正九年三月 A(二〇〇)一、一〇〇圓 B(二五〇)九〇〇圓
- 同 四月 A(二〇〇)九〇〇圓 B(二五〇)七七五圓
- 同 五月 A(二〇〇)七〇〇圓
- 同 八月 A(二〇〇)五五〇圓 B(二五〇)五二五圓
- 同 十二月 B(二〇〇)四八〇圓 改良A(二二〇)四八〇圓 改良B(二二〇)四五〇圓 改良A(二五〇)四七五圓 改良B(二五〇)四二五圓
- 大正十年三月 A(二〇〇)四五〇圓 A(二五〇)四二五圓 (二五〇)三七五圓
- 大正十年六月 A(二〇〇)三七五圓 A(二五〇)三六〇圓 A(三〇〇)三四二圓
- 同 十月 A(二五〇)三六〇圓 A(三〇〇)三二四圓
- 同 十二月 A(二〇〇)三八〇圓 B(二五〇)三六〇圓
- 大正十一年三月 廣島A(一一〇)四〇〇圓 廣島A(一七〇)四〇〇圓 廣島B(一一〇)三八〇圓 廣島B(二五〇)三八〇圓



廣島B(二〇〇)四二〇圓 廣島B(二五〇)四〇〇圓

右表の通り大正七年(この年帝人現名に改稱せらる)東印の二百並二百五十デニールの込み値段は五〇〇圓、又八年六月の二百デニールA品七五〇圓は九年三月に至つて一、一〇〇圓を以て取引せられて居る。尙其後下り坂となり同年八月には五五〇圓に、十年三月には四五〇圓、六月には三七五圓と下落して居るが、今日二百デニール一四二圓前後(昭和五年五月と云ふに比すれば、轉た隔世の感なき能はない。もつとも少量生産によるこの時代の生産原價は恐らく昨今に數倍したと見なければならぬ)。

(二) 定價時代

次は定價時代とも稱すべき時代である。即ち大正十一年六月より大正十五年十二月迄の四ヶ年半の間である。本邦に於ける人絹の生産額はこの時代に入るに及んで急激に増加した。それは従來の帝人一社に加ふるに、十一年五月旭絹織株式會社がその前身會社たる旭人造絹糸會社を引次いで人絹の製造に従事せる爲めである。生産の急増と共に、取引も旺盛となり、愈々人絹界も本筋に入る事となつたのである。定價販賣はこの時代の産物である。

先づ大正十一年六月一日の百五十B品五一〇圓に始つて七月には一時五五〇圓にせり上げられたが、其の後は逐次改正の度に値下せられ、殊に大正十五年下期に至つて以前より漸く流入しつゝ、あつた輸入品が急激に増加せる爲め其の壓迫に堪へられず七月一日、九月一日、同十五日、同廿五日、十月一日、十二月一日と矢繼早に改正を餘儀なくせられて、遂に二二〇圓と成り下つた。時々の改正定價は左表の通りである。

帝人一五〇B定價 百封度當り

大正十一年六月一日	五一〇圓
同 七月十日	五五〇圓
同 十二月一日	五〇〇圓
大正十二年二月五日	各デニールC品値下げ
同 四月一日	五〇〇圓
同 六月一日	四八〇圓
同 七月十日	四五〇圓
同 八月十五日	四〇〇圓
大正十二年九月廿七日	四二〇圓



同	十一月一日	四三〇圓
大正十三年	四月一日	四〇〇圓
同	五月一日	四一〇圓
同	七月一日	三五〇圓半
同	八月廿日	三六〇圓半
同	十二月一日	一〇〇、一二〇デニール 値段改正
大正十四年	八月一日	一五〇デニールBを除く外値段改正
大正十五年	七月一日	三六〇圓
輸入品激增		
大正十五年	九月一日	三〇〇圓
同	九月十五日	二八〇圓
同	九月廿五日	二四〇圓半
同	十月一日	二三〇圓
同	十二月一日	二二〇圓
十二月十五日以降定價廢止		

(三) 成行相場時代

大正十五年度に於ける外國人絹の輸入高は、約三百三十萬封度に達して、本邦に於ける記録的數字を作つたのであるが、この内大部分は伊太利ダムピング品を以て占められて居り、内地市場がこの爲め攪亂せられた事は決して尠くない。即ち市場相場の變動漸く甚だしきを加へ、定價販賣制度の持續は到底困難となつて來た爲め、茲に大正十五年十二月十五日以降、成行相場時代の出現となつて現在に及んで居る。左表は昭和二年一月より、昭和五年一月に至る帝人百五十B C品並に百二十C品各月最高、最低相場である。

帝人一五〇B (當月物) 百封度當り

昭和二年一月	最高	最低
二月	二四六(圓)	二二二(圓)
三月	二五五	二四八
四月	二八八	二七四
五月	二七〇	二六三



昭和四年一月		帝人岩國一二〇〇(當月物)		帝人岩國一五〇〇(當月物)	
高値	安値	高値	安値	高値	安値
二四八(圓)	二四〇(圓)	二二八(圓)	二二〇(圓)	二二八(圓)	二二〇(圓)
十月	一九七	十月	一三五	十月	一六〇
十一月	二二四	十一月	二二二	十一月	一七一
十二月	二二三	十二月	二二一	十二月	一七〇
一月	二四一	一月	二三七	一月	一八三
二月	二四五	二月	二三七	二月	一九〇
三月	二五三	三月	二四一	三月	一九〇
四月	二四一	四月	二二七	四月	一八三
五月	二三〇	五月	二二五	五月	一八三
六月	二三二	六月	二〇八	六月	一八三
七月	二二八	七月	二〇八	七月	一八三
八月	二二〇	八月	一九七	八月	一六五
九月	二二〇	九月	一九七	九月	一六二
十月	一九七	十月	一三五	十月	一三五

以上兩毛相場

昭和三年一月		帝人岩國一二〇〇(當月物)		帝人岩國一五〇〇(當月物)	
高値	安値	高値	安値	高値	安値
二七五	二四〇	二二八(圓)	二二〇(圓)	二二八(圓)	二二〇(圓)
六月	二六七	六月	二二二	六月	一七〇
七月	二六二	七月	二二三	七月	一七一
八月	二四七	八月	二二二	八月	一七〇
九月	二三八	九月	二二二	九月	一八三
十月	二三〇	十月	二二二	十月	一九〇
十一月	二三七	十一月	二二二	十一月	一九〇
十二月	二四〇	十二月	二二二	十二月	一九〇
一月	二七五	一月	二二二	一月	一九〇
二月	二八〇	二月	二二二	二月	一九〇
三月	二六二	三月	二二二	三月	一九〇
四月	二三七	四月	二二二	四月	一九〇
五月	二三七	五月	二二二	五月	一九〇
六月	二二二	六月	二二二	六月	一九〇
七月	二二三	七月	二二二	七月	一九〇
八月	二二四	八月	二二二	八月	一九〇
九月	二二一	九月	二二二	九月	一九〇



十一月	一四三	一三〇	一四〇	一二〇
十二月	一八〇	一三〇	一四〇	一二八
昭和五年一月	一七八	一四五	一四〇	一二七
二月	二〇一	一六三	一七五	一三五
三月	一九一	一七一	一七二	一五二
四月	二一〇	一八四	一六九	一六二

以上福井相場

昭和二年度は、十五年度に對して、輸入著しく減少せる爲め、この方面の脅威も無く、需給は比較的圓滑に行はれ相場は余り動かなくなつた。三年度に至つて市場は漸やくシリ安歩調となり、年初の高値二百七、八十圓は年末に至るに及んで安値二百十一圓と落ち込んだ。然し乍ら人絹織物界は内外向共漸く活況を續け、福井、兩毛、其他各機業地に於ける人絹の需要は著しく旺盛となつて來た。

明けて昭和四年を迎ふるに及んで生産過剰の聲、漸やく巷間に喧傳せらるゝに至り、市場は愈々軟弱傾向を辿り、四月には一時福井方面の需要旺盛を入れて、相場吹上げたが、中旬以後、金解禁問題に絡む一般財界の萎縮人氣は再び市況を脅し、五月以後相場は漸落の一途を辿るに至つた。殊に七月内閣の更迭と共に解禁を高

唱するや不況は一層深刻化し、九月に入りては遂に百二十デニールの二〇〇圓臺割を出現するに至り、投機的投資の跳梁となり、十一月には遂に帝人岩國百二十C品一二四圓の市場賣買を見低落の勢ひ底止する所を知らず、遂に機業界を甚しき不安に陥れた。茲に於て人絹聯合會は市場の安定策を講ずる事となり、十一月末人絹會社間に生産制限並に共同輸出の決議成立するや、相場は漸くにして其低落を停め、安定を與ふると共に潜在したる需要は次第に現はれ來り、供給力の過剰ならざりし事の明かになるに従ひ、漸次其相場を引締めて來た。殊に四月に至つては終に百二十C品二一〇圓の高値を出現するに至つた。



## 東洋市場に於ける各國進出の状況

人絹原糸並人絹織布輸入市場としての東洋諸國は、茲數年來頗に注目を惹くに至つた。即ち支那、英領印度、更に南洋方面の諸市場の包藏する人絹原糸並織布の需要力は他の世界市場が各國に依つて既に相當古くから開拓され、最早飽和點に達せるかの感あるに反して、これ等市場は人絹並に全織布に對しては全く未開拓地なる爲めと、更に人絹がこれ等市場に最も適應性を有する事に依つて、世界に於ける人絹國にとつて垂誼措く能はざる重要市場として多大の注目をこゝに集注せしむる原因となつた事は當然と云はなければならぬ。

從來世界に於ける人絹原糸の重要なる輸入市場としては、北米並獨逸が擧げられて居つたが、之等各市場昨年度の輸入額は前者約一千六百萬封度、後者約二千萬封度にして、これを同じく昨年の上海港に於ける輸入額一千六百萬封度に比すれば、最早大なる逕庭を附し難きのみならず、北米市場は、絶大なる需要力を有つて居るけれども、國內に於ける生産も亦世界第一であるから輸入市場としての將來は最早大なる期待を懸け得ざるのみならず、關稅比較的高率なるため、既に輸入市場

としては、一九二七年度の一千六百萬封度をレコードとして、一九二八年度の一千三百萬、昨年度は前記の通り再び盛り返して一千五百九十萬封度と計上され、寧ろ現狀維持の形勢を示しつつある有様である。

更に獨逸市場は歐羅巴諸國にあつて關稅最も低率なる爲め、既に早くから各國人絹の重要なる輸出市場とされて居つたが、最近國內に於ける生産も著しく増進され、其の爲め輸入は阻止される形勢となつて來た。實際の數字に就て見るも一九二七年大約二千萬封度、一九二八年度一千八百萬封度、更に一九二九年は二千萬封度と寧ろ急激なる増加は望み難い形勢である。

斯様に世界に於ける人絹の重要市場は北米にしても、亦獨逸にしても其の將來は最早大なる期待を繋ぎ得ざるに反して、前記上海市場の如きは、支那各港の大約八割を輸入しつつあるものであるが、それすら既に昨年度に於て米、獨市場に比較し、過去數ヶ年間の實績に見るも、尙更に増加の傾向頗る顯著なるものがある。今試みに上海市場に於ける人絹原糸の茲數年來の輸入數字を擧げて見るに、(上海港稅關日報に依る)

大正十五年

五、三五四、九一九(封度)

昭和二年

九、三五一、九一六

昭和三年

一三、二九〇、六九八



昭和四年

一六、二四九、三五〇

然して之等は單に支那市場に於ける人絹原糸の場合に於てのみの傾向ではない。人絹織布の印度市場に於ける、又南洋諸市場に於ける何れも亦同様の事が云ひ得るのである。

今支那市場を始めとし、英領印度、海峽植民地、蘭領印度、並に比律賓各市場に就て順次其の發展の經過を觀察して見やう。

### (一) 支那市場

支那市場と云つてもこゝでは主として上海市場に就て述べる事とする。上海に於ける大正十五年以來の人絹原糸の輸入高は前掲の通りであるが、其の増加割合は累年七五%、四二%、二二%と云ふ數字を示し他の如何なる市場に於ても斯の如き急激なる發展を示せるものは其の數甚だ渺しとせなければならぬ。累年の月別統計は左表の通りである。

#### 上海人絹原糸月別輸入高

(單位封度)

月別	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年
一月	二一〇、五九	一七〇、八六	六九、九六	三、五八、八〇〇

月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
二月	六八、〇二	一六、七五	七〇八、二六四	七四一、四六八	一、三六、一六	二、二二、四〇六	一、二六、一三三	一、八五、四六七	一、〇〇、六六八	一、五五、五五七	一、六二、三七一	一、六二、三七一
三月	三三三、四四四	七七七、二五五	七〇四、七九六	三〇九、六〇〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
四月	一、三六、一六	二、三〇、三〇九	八三、九六六	一、一六、二〇〇	四六九、六六三	五六四、六二四	一、五二、三三一	一、九〇、一〇一	一、六二、三七一	一、三六、一六	一、三六、一六	一、三六、一六
五月	三六、一〇六	五六四、六二四	一、五二、三三一	一、九〇、一〇一	三六、一〇六	二、二二、四〇六	一、二六、一三三	一、八五、四六七	一、〇〇、六六八	一、五五、五五七	一、六二、三七一	一、六二、三七一
六月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
七月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
八月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
九月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
十月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
十一月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
十二月	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇	三三二、五三〇
計	五、三三、四九	九三、二九六	一三、三〇、六六	一六、二四九、三五〇	一、三六、一六	二、二二、四〇六	一、二六、一三三	一、八五、四六七	一、〇〇、六六八	一、五五、五五七	一、六二、三七一	一、六二、三七一

(上海港税關日報に依る)

右表に就て見らるゝ通り、各月の輸入量は頗るまち／＼で變動甚しき爲め、毎年どの期に於ても最も輸入數量が多いかと云ふ事を判別し得ない。累年の輸入平均月額額は左の通りである。

大正十五年平均月額

四四六、二四三(封度)